

2023年度 講義要綱

科 目	コミュニケーション I 必修 2単位 講義	講 師	阿久津 撰、竹島 孝昭
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスを一つの集団とみなし、集団として成長していく過程を体験学習する。 ・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。 ・認定絵本士養成講座科目を学び絵本への理解を深める。(該当科目6コマ) 		
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようにする。コミュニケーション能力を身に付ける。 ・社会人としての自己像を明確にする。 ・我が国の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する。受講者同士の相互理解を深め絵本専門士の役割について確認する。(認定:「オリエンテーション」鈴木八重子) ・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係る情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:「絵本の世界を広げる技術③」井上まどか) ・公共図書館の行う児童サービスについて理解する。地域の読書活動推進活動における絵本をめぐる活動の展開を理解する。(認定:「絵本と出会う③」武田優) ・絵本の内容及び特質を客観的に捉えることについて理解する、書評及び紹介文の書き方を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術②」横山雅代) ・障害者、病児及び高齢者等絵本の選択や紹介にあたり、特に配慮を必要とする人について理解する。(認定:「絵本を紹介する技術③」井上まどか) ・子どもにとって魅力的な絵本に関する空間やレイアウトについて理解する。(認定:「絵本のある空間」飯田有美) 		
到達目標1	<ul style="list-style-type: none"> ・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。 	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点
到達目標2	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養い、進路決定に必要な基本的知識、スキルを活用できる。 	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度50点
授業方法	コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 コミュニケーションプログラム(1) 3 クラス活動(1) 4 カウンセリング 5 クラス活動(2) 6 産学連携 7 セルフコーチング(1) 8 セルフコーチング(2) 9 クラス活動(3) 10 クラス活動(4) 11 クラス活動(5) 12 産学連携 13 クラス活動(6) 14 クラス活動(7) 15 クラス活動(8) 16 オリエンテーション 17 【認定絵本士養成講座科目】「オリエンテーション」担当:鈴木八重子 18 コミュニケーションプログラム(2) 19 【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術③」担当:井上まどか 課題提出 20 就職にむけて(1) 21 産学連携 22 【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う③」担当:武田優 23 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術②」担当:横山雅代 24 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術③」担当:井上まどか 課題提出 25 コミュニケーションプログラム(3) 26 クラス活動(9) 27 産学連携 28 【認定絵本士養成講座科目】「絵本のある空間」担当:飯田有美 29 就職にむけて(2) 30 クラス活動(10) 		

必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献				
担当教員の専門分野等	井上恵理: 専門は臨床心理学。臨床心理士、公認心理師として活動中。 【認定絵本士養成講座担当講師】 ○鈴木八重子: 講座責任者 ○井上まどか: 絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験を持つ者・障がい者、病児、高齢者、特に配慮を要する人及び当該者向けの絵本に精通した者 ○飯田有美: 書店における絵本の売り場づくり、及び、絵本の出版流通に精通した者 ○武田優: 図書館司書業務と、地域の読書推進活動における絵本をめぐる活動の現状に精通した者 ○横山雅代: 書評に関する専門的知識を有する者			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	10 %

2023年度 講義要綱

科 目	必修 コミュニケーション I 講義	講 師	井上 恵理
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスを一つの集団とみなし、集団として成長していく過程を体験学習する。 ・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。 ・認定絵本士養成講座科目を学び絵本への理解を深める。(該当科目6コマ) 		
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようにする。コミュニケーション能力を身に付ける。 ・社会人としての自己像を明確にする。 ・我が国の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する。受講者同士の相互理解を深め絵本専門士の役割について確認する。(認定:「オリエンテーション」鈴木八重子) ・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係る情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:「絵本の世界を広げる技術③」井上まどか) ・公共図書館の行う児童サービスについて理解する。地域の読書活動推進活動における絵本をめぐる活動の展開を理解する。(認定:「絵本と出会う③」武田優) ・絵本の内容及び特質を客観的に捉えることについて理解する、書評及び紹介文の書き方を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術②」横山雅代) ・障害者、病児及び高齢者等絵本の選択や紹介にあたり、特に配慮を必要とする人について理解する。(認定:「絵本を紹介する技術③」井上まどか) ・子どもにとって魅力的な絵本に関する空間やレイアウトについて理解する。(認定:「絵本のある空間」飯田有美) 		
到達目標1	<ul style="list-style-type: none"> ・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。 	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点
到達目標2	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養い、進路決定に必要な基本的知識、スキルを活用できる。 	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度50点
授業方法	コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 コミュニケーションプログラム(1) 3 クラス活動(1) 4 カウンセリング 5 クラス活動(2) 6 産学連携 7 セルフコーチング(1) 8 セルフコーチング(2) 9 クラス活動(3) 10 クラス活動(4) 11 クラス活動(5) 12 産学連携 13 クラス活動(6) 14 クラス活動(7) 15 クラス活動(8) 16 オリエンテーション 17 【認定絵本士養成講座科目】「オリエンテーション」担当:鈴木八重子 18 コミュニケーションプログラム(2) 19 【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術③」担当:井上まどか 課題提出 20 就職にむけて(1) 21 産学連携 22 【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う③」担当:武田優 23 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術②」担当:横山雅代 24 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術③」担当:井上まどか 課題提出 25 コミュニケーションプログラム(3) 26 クラス活動(9) 27 産学連携 28 【認定絵本士養成講座科目】「絵本のある空間」担当:飯田有美 29 就職にむけて(2) 30 クラス活動(10) 		

必須テキスト	【認定絵本土科目】認定絵本土養成講座テキスト			
参考文献				
担当教員の専門分野等	井上恵理: 専門は臨床心理学。臨床心理士、公認心理師として活動中。 【認定絵本土養成講座担当講師】 ○鈴木八重子: 講座責任者 ○井上まどか: 絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験を持つ者・障がい者、病児、高齢者、特に配慮を要する人及び当該者向けの絵本に精通した者 ○飯田有美: 書店における絵本の売り場づくり、及び、絵本の出版流通に精通した者 ○武田優: 図書館司書業務と、地域の読書推進活動における絵本をめぐる活動の現状に精通した者 ○横山雅代: 書評に関する専門的知識を有する者			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	10 %

2023年度 講義要綱

科 目	コミュニケーション I 必修 2単位 講義	講 師	中西 和子
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスを一つの集団とみなし、集団として成長していく過程を体験学習する。 ・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。 ・認定絵本士養成講座科目を学び絵本への理解を深める。(該当科目6コマ) 		
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようにする。コミュニケーション能力を身に付ける。 ・社会人としての自己像を明確にする。 ・我が国の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する。受講者同士の相互理解を深め絵本専門士の役割について確認する。(認定:「オリエンテーション」鈴木八重子) ・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係る情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:「絵本の世界を広げる技術③」井上まどか) ・公共図書館の行う児童サービスについて理解する。地域の読書活動推進活動における絵本をめぐる活動の展開を理解する。(認定:「絵本と出会う③」武田優) ・絵本の内容及び特質を客観的に捉えることについて理解する、書評及び紹介文の書き方を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術②」横山雅代) ・障害者、病児及び高齢者等絵本の選択や紹介にあたり、特に配慮を必要とする人について理解する。(認定:「絵本を紹介する技術③」井上まどか) ・子どもにとって魅力的な絵本に関する空間やレイアウトについて理解する。(認定:「絵本のある空間」飯田有美) 		
到達目標1	<ul style="list-style-type: none"> ・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。 	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点
到達目標2	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養い、進路決定に必要な基本的知識、スキルを活用できる。 	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度50点
授業方法	コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。		
授業計画	1 オリエンテーション		
	2 コミュニケーションプログラム(1)		
	3 クラス活動(1)		
	4 カウンセリング		
	5 クラス活動(2)		
	6 産学連携		
	7 セルフコーチング(1)		
	8 セルフコーチング(2)		
	9 クラス活動(3)		
	10 クラス活動(4)		
	11 クラス活動(5)		
	12 産学連携		
	13 クラス活動(6)		
	14 クラス活動(7)		
	15 クラス活動(8)		
	16 オリエンテーション		
	17 【認定絵本士養成講座科目】「オリエンテーション」担当:鈴木八重子		
	18 コミュニケーションプログラム(2)		
	19 【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術③」担当:井上まどか 課題提出		
	20 就職にむけて(1)		
	21 産学連携		
	22 【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う③」担当:武田優		
	23 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術②」担当:横山雅代		
	24 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術③」担当:井上まどか 課題提出		
	25 コミュニケーションプログラム(3)		
	26 クラス活動(9)		
	27 産学連携		
	28 【認定絵本士養成講座科目】「絵本のある空間」担当:飯田有美		
	29 就職にむけて(2)		
	30 クラス活動(10)		
必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト		

参考文献				
担当教員の専門分野等	中西和子:□ 【認定絵本士養成講座担当講師】○鈴木八重子:講座責任者 ○井上まどか:絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験を持つ者・障がい者、病児、高齢者、特に配慮を要する人及び当該者向けの絵本に精通した者 ○飯田有美:書店における絵本の売り場づくり、及び、絵本の出版流通に精通した者 ○武田優:図書館司書業務と、地域の読書推進活動における絵本をめぐる活動の現状に精通した者 ○横山雅代:書評に関する専門的知識を有する者			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	10 %

2023年度 講義要綱

科 目	体育講義	必修 1単位 講義	講 師	真砂 雄一
授業概要	健康を取り巻く社会状況の中で、国民一人一人が生涯にわたる心身の健康の保持増進を図るためには、疾病の発症そのものを予防するのみならず、ストレス解消やストレスへの抵抗力を増す観点からも、運動、栄養及び休養を柱とする調和のとれた生活習慣の確立が不可欠である。また、生涯にわたって豊かなスポーツライフを送るためには、運動やスポーツについての幅広い知識を身につけておく必要がある。スポーツの意味や素晴らしさに加え、運動技能や体力を合理的に向上させるための科学的知識や方法を学び、スポーツの歴史や文化的意義などを総合的に捉え、体育の必要性を考えていく。			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたり有意義な人生を送るために、健康なライフスタイル(生活様式)を確立することは重要であり、そのための健康・スポーツについての基礎知識を身につける。 ・誕生からの一生涯にわたるからだの発達と加齢のプロセスを理解できるようになる。 ・授業で修得した知識や態度が、個人の日常生活で活用され、より健康で豊かな生活が営めるようになる。 			
到達目標1	健康・スポーツについての基礎知識を身につけ、理解し、具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(15点)、講義内容に関する小レポート(20点)	
到達目標2	誕生からの一生涯にわたるからだの発達と加齢のプロセスを理解できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(15点)、講義内容に関する筆記試験(50点)	
授業方法	授業は、オンラインで行う講義と対面での講義・演習のアクティブラーニング・スタイルで行う。授業で学んだ知識を日常生活に取り入れ、自身の健康について考える機会としてもらいたい。 ※社会情勢や進行状況に合わせて内容や順番を適宜変更する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス・スポーツとは 2 遊具と安全環境 3 様々な環境下における運動 4 年代別に応じた運動の指導法 5 トレーニング(オンライン) 6 産学連携 7 幼児期に必要な運動 8 応急処置 9 人体の構造と機能 10 運動と健康 11 生活習慣病(オンライン) 12 産学連携 13 体力 14 運動神経とは 15 まとめ、振り返り 			
必須テキスト	特になし(授業中に配布、オンライン上に資料を掲示)			
参考文献	授業内で適宜紹介する			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。現在短大にて、幼児体育や健康を担当する准教授として勤務。小学校で体育テクニカルアドバイザーの経験あり。保育園にて運動指導アドバイザー。専門分野:幼児体育、身体表現、健康科学			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	30% %

2023年度 講義要綱

科目	日本語 必修 1単位 講義		講師	橋本 千鶴
授業概要	人間の言語能力である「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの特徴を理解し、保育者として求められる基礎的な言語能力の向上を目指す。実習や保育現場での対応を想定して、4つの言語能力を具体的な場面から考える。			
授業目標	1.「話すこと」自分の考えや思いを分かりやすく表現する。 2.「聞くこと」相手の言いたいことを的確に把握する。 3.「書くこと」自分の伝えたいことを明確に表現する。 4.「読むこと」書いてある内容を正確に理解し、適切に口頭で表現する。			
到達目標1	自分の考えや思いを、相手意識・目的意識を考えて適切に表現することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、課題・発表・レポート(40点)	
到達目標2	話し手や書き手の言いたいことを正確に理解し、自分の考えを明確にすることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、課題・レポート(20点)	
授業方法	保育者に必要な4つの言語能力について、グループワーク・ディスカッション等の体験や実技を通して実践的に学ぶ。			
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価他)・【話】自己紹介・【聞】素話の紹介 2 【書】文字の正しい書き方(平仮名・漢字他) 3 【書】観察記録・実習日誌の書き方 4 【書】連絡帳の書き方 5 【書】原稿用紙の使い方・小論文の書き方 6 産学連携 7 乳幼児の言葉の発達と言語表現 8 【話】素話の発表・【話】保護者への話し方 9 【聞】カウンセリングマインドに基づく話の聞き方(1)(言語的技法) 10 【聞】カウンセリングマインドに基づく話の聞き方(2)(非言語的技法) 11 【話】子どもと楽しむ言葉遊び(1) 12 産学連携 13 【話】子どもと楽しむ言葉遊び(2)(模擬保育) 14 【読】文章の読み方(音読)・【読】絵本の読み聞かせ 15 【読】昔話(解釈と言葉のおもしろさ)			
必須テキスト	特になし。			
参考文献	授業で適宜紹介。			
担当教員の専門分野等	小学校教員として長く勤務し、国語・ことば分野を重点的に研究。日本カウンセリング学会認定カウンセラー。大学等で、言葉・言語文化表現・教育相談(カウンセリング)等の授業を担当。「教師・保育者のための教育相談」(共著・萌文書林)を出版。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	20% %	主体性 素直 思いやり	10% %
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	30% %

2023年度 講義要綱

科目	保育原理 必修 2単位 講義		講師	岸久美子
授業概要	テキストを中心に、保育に関する法令や制度について学ぶ。 また、日本及び海外における保育の歴史について理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の意義について理解する。 2. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 3. 保育の内容と方法の基本について理解する。 4. 保育の思想と歴史の変遷について理解する。 5. 保育の現状と課題について考察する。 			
到達目標1	保育に関する法令と諸制度について理解する。 また、保育の思想や歴史の変遷について、基本的な内容を理解する。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席(20%)+授業態度、提出物など(30%)+学期末試験(50%)=合計100%	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	テキストを用いた講義形式。必要に応じてグループワークを行なう。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 保育の方向性と保育実践の基礎となる発達観 2 保育に関する諸法令などからみる保育の原理 3 保育所保育指針、幼稚園教育要領、教育・保育要領にみる保育の原理 4 養護と教育の一体化について 5 (オンライン)1～4回目の振り返り及びまとめ 6 産学連携 7 保育実践の基礎構造について 8 (オンライン)多様な保育内容とその方法、子育て支援について 9 海外における保育の歴史と思想 10 日本における保育の歴史と思想 11 (オンライン)7～10回目の振り返り及びまとめ 12 産学連携 13 保育者の在り方について 14 これからの保育に向けて 15 科目まとめ 			
必須テキスト	改訂版Workで学ぶ保育原理(わかば社)			
参考文献	保育所保育指針解説・平成30年3月(フレーベル館) その他、授業内で随時紹介する。			
担当教員の専門分野等	保育者養成校に、ピアノをはじめ実習等の担当として約20年勤務。現在、大学院博士後期課程において保育学を専攻。日本保育学会、日本乳幼児教育学会、日本乳幼児教育・保育者養成学会、日本学校音楽教育実践学会他に所属。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

2023年度 講義要綱

科 目	保育原理 必修 講義	講 師	小澤 由理	
授業概要	保育者として基礎的な保育の事項を学ぶことを目標に、保育の歴史・思想を通じて保育の目的や意義を理解するとともに、保育に関する法や制度、保育の内容と方法、そして今日的求められる保育者の在り方について理解する。保育の内容と方法については、保育所保育指針を基礎としながら、幼児の発達の特徴を学ぶとともに、具体的な保育指導計画をもとに保育記録を作成することで、保育者に求められる考え方や態度について理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の意義及び目的について理解する。 2. 保育に関する法令及び制度を理解する。 3. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 4. 保育の思想と歴史の変遷について理解する。 5. 保育の現状と課題について理解する。 			
到達目標1	保育の歴史、思想および実践的な原理を理解し、保育職の意義を理解し、倫理観を高める。保育の内容構成や基本方針を理解し、現代における保育の在り方と、保育現場に求められている内容について理解する。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(10%)+小課題・試験(40%)	
到達目標2	保育の原理一般に関する正しい知識を踏まえ、具体的な保育の現場を想定し、自らで保育の記録を取り、ドキュメンテーションとしてまとめ、発表・議論することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	課題への取り組み(10%)+課題(ドキュメンテーション)の提出(40%)	
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを使ったスライドを活用した講義を中心に、プリント・資料を配布する。またグループフォームを活用した小課題の提出や期末には試験課題を実施する。 ・授業の後半にドキュメンテーションの作成・発表・議論を行う。 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 この授業の内容や方法について説明する。課題や採点方法についても説明する。 2 現代の保育の基本的な思想である、ルソー、フレーベル、倉橋惣蔵の保育思想に触れ、理解を深める。 3 現代の保育に関する法律・施設の種類について理解をする。また保育所保育指針における養護と教育の一体化の在り方や、乳児保育の3つの視点、幼児保育の5領域について知る。 4 保育所保育指針に基づき、現代の保育に求められる保護者支援や子育て支援について知る。 5 保育所保育指針に基づき、乳児の発達の在り方と望ましい関わりについて知り、保育者に求められる保育観の基礎を築く。 6 産学連携 7 保育所保育指針に基づき、幼児の発達(1歳児～2歳児)と望ましい関わり方について知り、保育者に求められる保育観の基礎を築く。 8 保育所保育指針に基づき、幼児(3歳児～5歳児)の発達と望ましい関わり方について知り、保育者に求められる保育観の基礎を築く。 9 現代の保育に求められる保育施設の最低設置基準や、様々な保育場面や保育方法で用いられる環境構成について知る。 10 保育課程について理解を深め、指導計画に基づく保育の実践の在り方について知る。 11 指導計画の作成のための保育記録の在り方について知り、その手法の一つであるドキュメンテーションの実践に触れる。 12 産学連携 13 保育記録の手法の一つであるドキュメンテーションを作成する。 14 ドキュメンテーションを発表し、互いに議論する。 15 試験課題に取り組み、本科目で学んだことをふり返る。 			
必須テキスト	小田豊・神長美津子・箕輪潤子『保育原理』光生館2019年 その他、授業時にプリントを配布する。			
参考文献	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
担当教員の専門分野等	西洋・日本の女性教育史の研究。保育実習指導に関する研究。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	20% %

2023年度 講義要綱

科目	保育原理	必修 2単位 講義	講師	星野 優芽
授業概要	「保育とは何か」ということについて考えていきます。自分の考えを持って、保育は誰のためにあり、何のためにあるのか、自分はどんな保育者になりたいか、を考え続けるための授業です。 ～基本的な姿勢として～ 保育における「子ども理解」について考える			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の意義及び目的について理解する。 2. 保育に関する法令及び制度を理解する。 3. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 4. 保育の思想と歴史的変遷について理解する。 5. 保育の現状と課題について理解する。 			
到達目標1	1. 保育は誰のためにあるのか、何のためにあるのかを説明できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	(1)最終回に実施予定の記述式テスト(30点) 自分の考えをわかりやすく、適切な表現で記載すること。漢字等の誤字は減点にしません。表現には気を付けること。(例えば「～させる」は望ましくない場合が多いです) (2)授業内のリアクションペーパー、ワークシート等の内容、グループワーク(GW)への達成度(40点) 量より質で評価する。「〇〇は大切だと思う」だけでなく、なぜそう考えるのかが書かれていること。加えて具体的な場面の想定、自分の経験が踏まえられているとより評価できる。	
到達目標2	2. 保育における「5領域」の内容を自分の言葉で説明できる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	(1)授業内に実施する筆記テスト(穴埋め)で漢字を含め一言一句間違えずに正答すること。(20点) (2)授業内のリアクションペーパー、ワークシート、グループワークにおいて、自分なりの理解に基づいて5領域の視点を持つこと。(10点)	
授業方法	・講義やグループワーク 保育者には他者とのコミュニケーションや自分の考えを表現する力が大切です。 ・テストあり			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 この授業の内容や方法について説明します。その上で、時間が余ったら、みなさんが「保育」についてどんなイメージを持っているのか、教えていただきたいと思います。 2 学校教育と保育の違いはどこにあるのでしょうか？それについて考えた上で、保育の理念や概念、子どもの最善の利益を学びます。 3 保育は保育所、幼稚園、認定こども園、家庭的保育などがあります。それぞれの施設について知り、また保育の社会的意義についても考えてみましょう。 4 養護と教育の一体性、環境を通して行なう保育、生きる力の基礎を育むということについて学びます。養護とは何か、教育とは何か、考えてみましょう。 5 保育は子どもの育ちを支える営みです。そうした育ちを支えるためには、目の前の子どもたちが「どんな経験をするのが望ましいのか」を考え、また「どんなことが育っているか」と捉えることが大切です。そのための視点として「乳児保育の3つの視点」と「5領域」があります。その視点について考えていきましょう。 6 保育の現場で、保育とはどんな営みなのか、観察してみましょう。 7 「乳児保育の3つの視点」や「5領域」は、その子どもの発達によって、ねらいや内容が異なります。子どもの発達と合わせて、それぞれの視点について考えてみましょう。 8 「5領域」と実際の子どもの姿を重ねてみながら、どんなことが育っているのか、考えてみましょう。 			

	<p>9 保育は、「教育課程」や「全体的な計画」と言われる大きな長期的な計画から、「期案」「月案」「週案」「日案」「部分案」というような短期的な計画があります。これらは、それまでの保育施設における子どもの姿をもとに枠組みが作られ、その上で実際の子どもの姿を踏まえて、具体的な内容が記されています。そしてその子どもの姿は保育日誌等の記録に書き留められています。そうしたいわゆる”書き物”がなぜ必要なのか、考えてみましょう。</p>												
	<p>10 実際の保育所の月案や、幼稚園の週案を見て、保育者がどんなふうに行っているのか、どんなことに配慮しているのか、考えてみましょう。 また「月案」はクラス全体の計画ですが、乳児期の「個別記録」は子ども個人の記録になります。「個」と「集団」への配慮についても考えてみましょう。</p>												
	<p>11 保育所や幼稚園、こども園を卒園した子どもたちは、小学校へ就学します。小学校での生活や学びは、当然それまでの乳幼児期からの生活や育ちと連続しています。そうした保幼小の連続性を考えるために、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」があります。それについて学びましょう。 ※「10の姿」は到達目標ではなく、方向目標である。</p>												
	<p>12 前期2回目の産学連携になります。保育の場面にかかわりながら、実際に子どもの姿やそこに関わる保育者の姿、自分の関わり方について、エピソードを書いてみましょう。</p>												
	<p>13 まず「子ども理解」とは何か。「子どもを理解する」と一言と言っても、それはどんな視点からの理解なのでしょう？子どもの気持ちや心を理解すること、育ちを理解すること、その両方が求められます。 子どもの「育ち」は、あくまでも子どもの「心が動く」瞬間があってこそその産物です。子どもの心が動く、つまり好奇心や探究心が芽生え、かき立てられるからこそ、もっと知りたい、やってみたい、という意欲につながっていきます。</p>												
	<p>14 子どもの「心が動く」瞬間を見つけ、その場に立ち会うと保育者も「たのしい」「うれしい」「おもしろい」と心が動きます。そしてそれを記録に残すことが必要なのですが、その際には、「個人」の視点と「集団」の視点から、子どもたちにどんなことが育ってきたのだろうか？と振り返り、記録していくことが大切です。実際の事例から「5領域」の視点をもって子どもの育ちを捉えてみましょう。</p>												
	<p>15 ・乳児保育における3つの視点と5領域の書き取り ・保育とは何か(誰のため/何のためにあるのか)(自由記述) ・保育する上で大切にしたいこと(自由記述)</p>												
<p>必須テキスト</p>	<p>保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p>												
<p>参考文献</p>	<p>授業中に随時紹介します。</p>												
<p>担当教員の専門分野等</p>	<p>保育者の専門性、実践知、0歳児保育について特に関心があります。 保育者は保育中何を考えているのか、何を見ているのか、あるいは、何について把握しておかなければならないのか、何を意識しておかなければならないのか、それが保育の実践における専門性であると考えています。</p>												
<p>この授業で身につく「6つの力」</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="233 1290 496 1346">職業に対する理解</td> <td data-bbox="496 1290 751 1346">40% %</td> <td data-bbox="751 1290 1011 1346">社会の動きに関心をもち 学び続ける力</td> <td data-bbox="1011 1290 1272 1346">5% %</td> </tr> <tr> <td data-bbox="233 1346 496 1406">社会人としての基本</td> <td data-bbox="496 1346 751 1406">10% %</td> <td data-bbox="751 1346 1011 1406">主体性 素直 思いやり</td> <td data-bbox="1011 1346 1272 1406">15% %</td> </tr> <tr> <td data-bbox="233 1406 496 1469">他者と関わる力</td> <td data-bbox="496 1406 751 1469">20% %</td> <td data-bbox="751 1406 1011 1469">専門的知識・技術</td> <td data-bbox="1011 1406 1272 1469">10% %</td> </tr> </table>	職業に対する理解	40% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	5% %	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	15% %	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	10% %
職業に対する理解	40% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	5% %										
社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	15% %										
他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	10% %										

2023年度 講義要綱

科目	教育原理		必修 2単位 講義	講師	難波 知希
授業概要	「教育」と呼ばれる人間の営みについて、歴史や思想、制度などに焦点を合わせながら幅広く学ぶことによって、受講者が「教育」について確かな思考を紡ぐことができるようになることを目指します。				
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する様々な歴史・思想・制度・組織・実践・社会の諸領域との関わりなど幅広い知識を習得する。 ・習得した知識を現代の教育課題につなげて一人ひとりが考えを深められることを目指す。 				
到達目標1	「教育」をめぐる諸問題について、他の受講者との議論を通して、自分なりに思考を深めることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み状況(30点)		
到達目標2	「教育」をめぐる諸問題について、各回の講義内容を踏まえながら、客観的に論じることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	各回に課す小テストあるいは小レポート(70点)		
授業方法	講義を基本とします。適宜視聴覚教材も使用します。また、他の受講者と議論を交わす機会も設けます。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 導入／教育学概論(1): 教育学的思考の基礎 2 西洋教育史(1): 子どもをめぐる史的展開 3 西洋教育史(2): 包摂と排除の史的展開 4 日本教育史(1): 近代教育の原風景 5 日本教育史(2): 近代教育の成立と展開 6 産学連携 7 日本教育史(3): 戦後新教育とそのゆくえ 8 教育思想(1): 近代西洋の教育思想 9 教育思想(2): 近代教育批判の水脈 10 教育制度論(1): 教育基本法と学校教育法 11 教育制度論(2): 学習指導要領の史的変遷 12 産学連携 13 現代教師論(1): 教職の特徴と専門性 14 現代教師論(2): これからの学校改革 15 教育学概論(2)／総括: 教育の理論と実践 				
必須テキスト	特に指定しません。				
参考文献	授業中に適宜紹介します。				
担当教員の専門分野等	近代日本教育史。近代日本における学校と国家、社会との関係について研究を深めています。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	30 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %	

2023年度 講義要綱

科目	必修 2単位 講義		講師	久島 裕介
授業概要	「教育とはなにか」という問いをめぐる様々な知識を学びます。また、現代的な教育課題についても学びを深めていきます。			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する様々な歴史・思想・制度・組織・実践・社会の諸領域との関わりなど幅広い知識を習得する。 ・習得した知識を現代の教育課題につなげて一人ひとりが考えを深められることを目指す。 			
到達目標1	教育に関する基礎的な事項について理解し、自分自身の教育観について考えを深めることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	毎回のリアクションペーパー(20点)、講義内容に関する筆記試験(30点)	
到達目標2	授業の中で考えたことについて自分の言葉で表現することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	毎回のリアクションペーパー(20点)、発表・レポート(30点)	
授業方法	基礎的な事柄については講義形式で授業を行い、視聴覚教材を用いることもあります。また、グループワークやディスカッションも行う予定です。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション:「教育」とはなんだろう 2 「子ども」とはどのような存在なんだろう 3 「教師」の仕事とその役割とはなんだろう 4 海外での教育にはどのようなものがあるか 5 「教え方」「学び方」を考える 6 産学連携① 7 近代の教育思想、学校とはどのようなものか 8 子どもの「遊び」や「学び」とは何を意味するのか 9 子どもの学びはどう「評価」すればいいのか 10 子どものための学校とはどのような学校か 11 日本において学校と地域社会はどのように関わっているのか 12 産学連携② 13 子どもの教育を支える制度などにはどのようなものがあるか 14 子どもを取り巻く「教育の現代的課題」について考える 15 まとめ:あらためて「教育」とはなんだろう 			
必須テキスト	特に指定しません。授業中に適宜紹介します。			
参考文献	特に指定しません。授業中に適宜紹介します。			
担当教員の専門分野等	専門分野: 日本教育史、教員史。東京大学大学院教育学研究科博士課程、修士(教育学)。 教育活動: 小学校における特別支援教育支援員、福島県の中学・高校における学習支援活動。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	25% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	15% %

2023年度 講義要綱

科 目	子ども家庭福祉 必修 2単位 講義		講 師	秋山 雅代
授業概要	本授業では、子どもと子どもを取り巻く環境についての基礎的な理解を深め、福祉専門職として子ども・家庭福祉に関する現状と課題を主体的に捉えることを目的とする			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭(家族)福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭(家族)福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭(家族)福祉の福祉の展望について理解する。 			
到達目標1	福祉専門職として、現在社会と子ども家庭福祉の現状や課題、福祉制度や福祉サービスの実際、展望について説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業内で行う理解度を確認するための小レポートか確認テスト(50点)	
到達目標2	福祉専門職として、子どもの人権擁護について意見を述べるができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業内で行う理解度を確認するための小レポートか確認テスト(25点) 授業内でのグループ討議の内容や発表回数で評価(25点)	
授業方法	パワーポイントやレジュメ、映像資料などを用いた講義形式。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 子どもや家庭を取り巻く環境の変化(1) 2 子どもや家庭を取り巻く環境の変化(2) 3 子ども家庭福祉の歴史 4 子ども家庭福祉の制度と法律や実施体制(1) 5 子ども家庭福祉の制度と法律や実施体制(2) 6 産学連携 7 少子化と子育て家庭へのサービス 8 子育て支援と子どもに関する諸課題 その1 子ども虐待とは 9 子育て支援と子どもに関する諸課題 その2 DV(ドメスティックバイオレンス)とは 10 子育て支援と子どもに関する諸課題 その3 ひとり親家庭に関する支援 11 地域における連携と協働とネットワーク 12 産学連携 13 子どもの権利保障(1) 14 子どもの権利保障(2) 15 まとめ 			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	講義ごとに紹介する			
担当教員の専門分野等	社会的養護、ソーシャルワーク、多職種連携			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	50% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	10% %

2023年度 講義要綱

科目	子ども家庭福祉 必修 2単位 講義		講師	荒田 直輝
授業概要	本授業では①子どもと子育てをする者を取り巻く環境についての理解を深めること②子ども家庭福祉について関わる施設や機関について学ぶこと③エンパワメント・ストレングスの概念から子ども・家庭に関わる保育者の専門性の特徴を掴むことを目的とする。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。 			
到達目標1	子ども家庭福祉における基礎的な知識を身につけること及び興味・関心を持つことを目標とする。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(出席状況も加味・75点) 小レポート(25点)	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	パワーポイント・映像資料などを用いた講義形式。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 「子どもの権利」とは 3 子ども家庭福祉の歴史的展開 4 現代社会における「子どもと生活」 5 子育てをめぐる問題① 6 産学連携 7 子育てをめぐる問題② 8 保育サービス① 9 保育サービス② 10 子どもの遊びと福祉①(児童館とは) 11 子どもの遊びと福祉②(学童保育とは) 12 産学連携 13 子どもの遊びと福祉③(冒険遊び場とは) 14 子どもの居場所と福祉 15 子ども・若者の社会参加・参画 			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	特に指定なし			
担当教員の専門分野等	子ども・若者支援、プレイソーシャルワーク、遊びと福祉。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	40 %
	社会人としての基本	0 %	主体性 素直 思いやり	0 %
	他者と関わる力	0 %	専門的知識・技術	30 %

2023年度 講義要綱

科目	社会福祉 必修 2単位 講義		講師	久利 要子
授業概要	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、相談援助の実際について学ぶ。 子ども家庭支援の視点に立ち、最新動向をふまえて現場の実践に関連づけながら学習する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3. 社会福祉における相談援助について理解する。 4. 社会福祉における利用者保護の仕組みについて理解する。 5. 社会福祉の動向と課題について理解する。 			
到達目標1	1. 子育てで家庭の生活課題について、現代の社会状況をふまえて広い視野で考えることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)、講義内容に関する筆記試験(25点)	
到達目標2	2. 相談援助や利用者保護の仕組みを理解し、社会福祉の今後の展望に自らの関心を向けていくことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	提出課題(20点)、講義内容に関する筆記試験(25点)	
授業方法	講義形式。テキストの内容に関連する統計資料やプリント、映像教材なども活用していく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・社会福祉の理念と概念 2 社会福祉の歴史の変遷 3 子ども家庭支援と社会福祉 4 社会福祉の制度と法体系 5 社会福祉の実施機関 6 産学連携 7 社会福祉の専門職 8 相談保障及び関連制度の概要 9 相談援助の理論 10 相談援助の意義と機能 11 相談援助の対象と過程 12 産学連携 13 相談援助の方法と技術 14 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み 15 今後の展望・学習のまとめ(筆記試験) 			
必須テキスト	『九訂 保育士をめざす人の社会福祉』相澤譲治編、株式会社みらい			
参考文献	『社会福祉小六法2023』ミネルヴァ書房 など(授業中に適宜、紹介します。)			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育士、社会福祉士として母子生活支援施設や高齢者在宅支援の現場で相談業務を経験し、「ソーシャルワーカーとしての保育士の役割」を研究テーマとしている。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	30% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	20% %

2023年度 講義要綱

科目	社会的養護 I 必修 2単位 講義		講師	錫田 陽介
授業概要	社会的養護に関する基礎的な知識(歴史や法制度など)を学ぶ。 児童虐待についての基本的な考え方や現状などを学ぶ。 要保護児童や被虐待児の特徴やその支援方法について学ぶ。 子どもの権利擁護の歴史の変遷や現在の内容について学ぶ。			
授業目標	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 社会的養護の現状と課題について理解する。			
到達目標1	現代社会における社会的養護の役割と立ち位置を理解し、具体的に説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点) 講義内容に関する筆記試験(20点)	
到達目標2	社会的養護の現状と現在の課題について、論理的に理解し、説明することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	レポート提出(40点) グループディスカッションへの取り組み度(10点)	
授業方法	講義中心で進めていくが、状況に応じて、事例考察やグループワークなどを取り入れて行っていく。			
授業計画	1 オリエンテーション(授業形式・成績評価について) 社会的養護を学ぶ意味と必要性 2 社会的養護の基本的な考え方と歴史 3 社会的養護に関わる法制度とその歴史 4 社会的養護の様々な形態 5 児童虐待の種類と現状 6 産学連携 7 家庭的養護ー里親とはなにか?ー 8 社会的養護施設の現状①ー子どもたちの生活の姿ー 9 社会的養護施設の現状②ー支援の原理原則ー 10 社会的養護施設の現状③ー愛着障害と発達障害の理解ー 11 社会的養護施設の現状④ー地域連携ー 12 産学連携 13 社会的養護施設の現状⑤ー関係機関との連携ー 14 テスト・振り返り 15 社会的養護施設の今後の展望			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	授業内で紹介します。			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。児童養護施設・発達障害児支援施設での勤務経験あり。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	40 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	10 %

2023年度 講義要綱

科目	社会的養護 I 必修 2単位 講義		講師	藤高 直之
授業概要	社会的養護に関する基礎的な知識(歴史や法制度など)を学び、要保護児童や被虐待児の特徴やその支援方法を理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。 			
到達目標1	社会的養護の基本的構成や法制度について理解し、社会的養護 II を学ぶための基礎を作ることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、講義内容に関する筆記試験(30点)	
到達目標2	要保護児童や被虐待児の特徴やその支援方法について説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論への貢献度(20点)、発表・レポート(30点)	
授業方法	講義中心で進めていくが、状況に応じて、事例考察やグループワークなどを取り入れて行っていく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(授業形式・成績評価について) 社会的養護の理念と概念 2 社会的養護の歴史の変遷 3 子どもの人権擁護と社会的養護 4 社会的養護の基本原則 5 社会的養護における保育士等の倫理と責務 6 産学連携 7 社会的養護の制度と法体系、社会的養護のしくみと実施体系 8 社会的養護とファミリーソーシャルワーク、社会的養護の対象と支援のあり方 9 家庭養護と施設養護 10 社会的養護にかかわる専門職 11 社会的養護に関する社会的状況、施設等の運営管理の現状と課題 12 産学連携 13 被措置児童等の虐待防止の現状と課題 14 テスト・振り返り 15 社会的養護施設の今後の展望 			
必須テキスト	「新基本保育シリーズ6 社会的養護 I 第2版」中央法規出版 ISBN978-4-8058-8789-9			
参考文献	参考資料は授業時に紹介。			
担当教員の専門分野等	子育て支援を中心とした子ども家庭福祉分野を専門とする教員。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

2023年度 講義要綱

科 目	社会的養護 I		必修 講義	講 師	北川 裕子
授業概要	社会的養護の役割や援助内容を学ぶ。				
授業目標	1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。				
到達目標1	現代社会における社会的養護の意義や課題について理解できる。 保育士として必要な人権意識がもつことができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(10点)、提出物(40点)		
到達目標2	子どもの人権を尊重すること、自立を支援することとは何か、事例を用いながら学ぶ。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(10点)、提出物(40点)		
授業方法	講義を中心に、保育現場での実践力を身につけられるよう事例研究やロールプレイ等の学習も行う。				
授業計画	1 社会的養護とは？(理念と概念) 2 社会的養護の歴史 3 子どもを取り巻く状況と社会的養護の意義・役割 4 児童観の変遷、子どもの権利擁護と社会的養護 5 施設内虐待の防止 6 産学連携 7 児童虐待 8 社会的養護の制度と法体系、仕組みと実施体系、社会的養護に関わる専門職 9 養護の基本原則 10 家庭養護 11 施設養護の実際(支援内容) 12 産学連携 13 施設養護とソーシャルワーク 14 運営管理(措置制度と利用契約制度、倫理の確立など) 15 社会的養護と地域福祉、今後の展望				
必須テキスト	図解で学ぶ保育「社会的養護 I」原田旬哉他編著 萌文書林 「ひと目でわかる 保育者のための児童家庭福祉データブック」中央法規				
参考文献	参考資料は授業時に紹介。				
担当教員の 専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。児童養護施設勤務経験あり。 児童家庭福祉・社会的養護分野を研究。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	15% %	
	社会人としての基本	15% %	主体性 素直 思いやり	15% %	
	他者と関わる力	15% %	専門的知識・技術	20% %	

2023年度 講義要綱

科目	保育の心理学 必修 2単位 講義		講師	小沢 恵美子
授業概要	保育所にいる乳幼児期を中心に、子どもの発達について学習する。 今までの自分の経験と授業内容を関連させて、子どもの行動や人間の発達を理解する。			
授業目標	子どもの発達に関する心理学の基本的知識を学び、発達心理学の知識を習得する。 自分が保育者となった時のことを考えながら、授業内容を理解する。			
到達目標1	子どもの発達に関する心理学の基本的知識に基づき、 子どもの発達について具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関する筆記期試(55点)	
到達目標2	自分が保育者となった時のことを考えながら、子どもや 保護者への具体的な対応を述べることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組みやリアクションペーパー(15点)、レ ポート(30点)	
授業方法	テキストを使いながら、授業内容をプリントにまとめていく。 可能であれば各自の考えを発表する機会なども設ける。			
授業計画	1 ガイダンス、子どもの発達と環境 2 情緒の発達 3 自我の発達 4 愛着の形成 5 愛着行動と愛着の発達 6 産学連携 7 社会的相互作用 8 認知の発達① 9 認知の発達② 10 コミュニケーションの発達 11 乳幼児期の学びにかかわる理論 12 産学連携 13 動機づけ 14 発達障害について 15 全体のまとめ			
必須テキスト	『保育の心理学 実践につなげる、子どもの発達理解』井戸ゆかり編著、萌文書林			
参考文献	授業中に適宜紹介します。			
担当教員の 専門分野等	発達心理学や教育心理学の授業を担当してきました。発達心理学でも「子ども(幼児期)」の分野に興味があります。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	15% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	15% %
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	30% %

2023年度 講義要綱

科目	子どもの理解と援助 必修 1単位 講義		講師	錫田 陽介
授業概要	様々な児童福祉施設で生活する子ども達の様子、現状を学ぶ中で、子どもの「発達」を捉える視点を養う。子どもの健やかな発達に必要な「環境」と「関わり」について理解を深め、その担い手になるための準備を進める。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する 			
到達目標1	子どもの育ちを支える児童福祉施設について、主要施設の概要や現状について説明できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関する筆記試験(40点)	
到達目標2	子どもの育ちを支える児童福祉施設への興味を養い、担い手となる自分をイメージし、自らに必要な準備を進めることができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、講義内容に関するレポート試験(40点)	
授業方法	ワークシートを用いた講義			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション:「子どもの理解とは？」(授業概要・目標・評価・持物等の説明) 2 子どもの育ちを支える現場を知る 3 子どもの育ちを支える現場①:乳児院 4 子どもの育ちを支えるために必要なこと①:乳児院の現場から 5 子どもの育ちを支える現場②:児童養護施設 6 産学連携週 7 子どもの育ちを支えるために必要なこと②:児童養護施設の現場から 8 子どもの育ちを支える現場③:母子生活支援施設 9 子どもの育ちを支えるために必要なこと③:母子生活支援施設の現場から 10 子どもの育ちを支える現場④:障害児入所施設 11 子どもの育ちを支える現場⑤:障害児通所施設 12 産学連携週 13 生涯にわたる支援の現場:障害者入所施設/通所施設 14 「理解と援助」のために:障害者支援施設の現場から 15 学期末試験 			
必須テキスト	『ひと目でわかる 保育者のための児童家庭福祉データブック2023』全国保育士養成協議会(監修)、宮島清・山縣文治(編集)、中央法			
参考文献	授業中に適宜紹介する			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。児童養護施設・発達障害児支援施設での勤務経験あり。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

2023年度 講義要綱

科 目	子どもの理解と援助 必修 1単位 講義		講 師	石崎 隆嗣
授業概要	様々な児童福祉施設で生活する子ども達の様子、現状を学ぶ中で、子どもの「発達」を捉える視点を養う。子どもの健やかな発達に必要な「環境」と「関わり」について理解を深め、その担い手になるための準備を進める。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する 			
到達目標1	子どもの育ちを支える児童福祉施設について、主要施設の概要や現状について説明できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関する筆記試験(40点)	
到達目標2	子どもの育ちを支える児童福祉施設への興味を養い、担い手となる自分をイメージし、自らに必要な準備を進めることができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、講義内容に関するレポート試験(40点)	
授業方法	ワークシートを用いた講義			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション:「子どもの理解とは？」(授業概要・目標・評価・持物等の説明) 2 子どもの育ちを支える現場を知る 3 子どもの育ちを支える現場①:乳児院 4 子どもの育ちを支えるために必要なこと①:乳児院の現場から 5 子どもの育ちを支える現場②:児童養護施設 6 産学連携週 7 子どもの育ちを支えるために必要なこと②:児童養護施設の現場から 8 子どもの育ちを支える現場③:母子生活支援施設 9 子どもの育ちを支えるために必要なこと③:母子生活支援施設の現場から 10 子どもの育ちを支える現場④:障害児入所施設 11 子どもの育ちを支える現場⑤:障害児通所施設 12 産学連携週 13 生涯にわたる支援の現場:障害者入所施設/通所施設 14 「理解と援助」のために:障害者支援施設の現場から 15 学期末試験 			
必須テキスト	『ひと目でわかる 保育者のための児童家庭福祉データブック2023』全国保育士養成協議会(監修)、宮島清・山縣文治(編集)、中央法			
参考文献	授業中に適宜紹介する			
担当教員の専門分野等	教育学が専門。児童発達支援および放課後等デイサービスの現場を経験。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

2023年度 講義要綱

科目	子どもの理解と援助 必修 講義		講師	井上 恵理
授業概要	様々な児童福祉施設で生活する子ども達の様子、現状を学ぶ中で、子どもの「発達」を捉える視点を養う。子どもの健やかな発達に必要な「環境」と「関わり」について理解を深め、その担い手になるための準備を進める。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する 			
到達目標1	子どもの育ちを支える児童福祉施設について、主要施設の概要や現状について説明できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関する筆記試験(40点)	
到達目標2	子どもの育ちを支える児童福祉施設への興味を養い、担い手となる自分をイメージし、自らに必要な準備を進めることができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、講義内容に関するレポート試験(40点)	
授業方法	ワークシートを用いた講義			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション:「子どもの理解とは？」(授業概要・目標・評価・持物等の説明) 2 子どもの育ちを支える現場を知る 3 子どもの育ちを支える現場①:乳児院 4 子どもの育ちを支えるために必要なこと①:乳児院の現場から 5 子どもの育ちを支える現場②:児童養護施設 6 産学連携週 7 子どもの育ちを支えるために必要なこと②:児童養護施設の現場から 8 子どもの育ちを支える現場③:母子生活支援施設 9 子どもの育ちを支えるために必要なこと③:母子生活支援施設の現場から 10 子どもの育ちを支える現場④:障害児入所施設 11 子どもの育ちを支える現場⑤:障害児通所施設 12 産学連携週 13 生涯にわたる支援の現場:障害者入所施設/通所施設 14 「理解と援助」のために:障害者支援施設の現場から 15 学期末試験 			
必須テキスト	『ひと目でわかる 保育者のための児童家庭福祉データブック2023』全国保育士養成協議会(監修)、宮島清・山縣文治(編集)、中央法			
参考文献	授業中に適宜紹介する			
担当教員の専門分野等	臨床心理学が専門。数年間、教育相談室で子どもや保護者の発達相談等に応じていた。現在も臨床心理士、公認心理師として活動中。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

2023年度 講義要綱

科目	子どもの保健 必修 2単位 講義		講師	中村 直美
授業概要	子どもの身体の発育、発達の基本、特徴的な症状や病気について学びその知識を踏まえて子どもの心身の健康維持、増進、現状と課題について考えていく。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。 			
到達目標1	1.子どもの身体発育、発達、特徴的な症状や病気の基本を知り、それを踏まえた乳幼児の保健的対応について、具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)講義内容に関する筆記試験(30点)	
到達目標2	2.子ども特有の健康に関する問題、課題を知り健康の維持、増進について関心を持つことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)講義内容に関する筆記試験(30点)	
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1, パワーポイントを使用した講義形式 2, 事例ワーク等を通して保育所での保健活動の実際等を紹介 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について) 2 健康の概念について 3 子どもの身体発育の特徴について 4 子どもの運動機能の発育、原始反射について 5 新生児の理解と特徴的な病気について 6 産学連携 7 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気①(脳) 8 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気②(感覚器) 9 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気③(循環器) 10 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気④(呼吸器) 11 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気⑤(消化器) 12 産学連携 13 子どもの健康状態の観察とよくみられる症状について 14 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題について 15 試験・まとめ 			
必須テキスト	最新 保育士養成講座 第7巻 「子どもの健康と安全」			
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等(保育所、高齢者施設等)における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	40% %

2023年度 講義要綱

科 目	子どもの保健 必修 講義	講 師	尾近 千鶴	
授業概要	1. 子どもの発達・成長の特性と、心と身体の健康を維持し、増進する働きかけについて学ぶ。 2. 先天的な条件や養育、環境の影響を受けやすい面を考慮し、その子なりに健やかに育ち、自立した生活が送れるように、周囲の大人や社会の適切な対応について理解を深める。			
授業目標	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解できる。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解できる。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解できる。			
到達目標1	総合的に保育することを理解し、子どもの発達を踏まえた乳幼児の保健の内容について、具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	小テスト2回(20点)+課題レポート2回(20点)+日常点・授業への取り組み(10点) =合計(50点) 意欲的、積極的な取り組みを評価する。	
到達目標2	具体的な保育における保健場面を想定し、環境の構成、保育士の配慮事項を含む、保健的な対応を組み立てることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	小テスト2回(20点)+課題レポート2回(20点)+日常点・授業への取り組み(10点) =合計(50点) 意欲的、積極的な取り組みを評価する。	
授業方法	対面授業と遠隔授業。Teamsの機能を活かした資料の配布と課題提出の推進を図る。 自分の考えを発表する機会を設定する。 様々な形式で演習問題に取り組み、知識の定着と臨床で活かせる知恵を身につける。			
授業計画	1 ガイダンス 授業の進め方 子どもの健康と保健とは 保健活動の意義と目的 2 子どもの出生と母子保健の意義 3 現代社会における子どもの健康に関する課題 出生・死亡 発育の変化 4 子どもの疾病の予防と適切な対応 免疫機能 5 子どもの疾病の予防と適切な対応 感染症 6 産学連携 7 子どもの身体発育と運動機能の発達 標準と評価の仕方 8 子どもの生理機能の発達 9 子どもの心身の健康状態とその把握 体調不良時の対応 10 アレルギー疾患の特徴と適切な対応 11 新生児の病気、先天性疾患の特徴と対応 12 産学連携 13 慢性疾患の特徴と適切な対応 14 地域における保健活動と子どもの虐待防止 15 保護者との情報共有 子どもの健康診断と関連機関との連携 ※内容、回は授業の進行等により変更することがある。			
必須テキスト	「授業で現場で役に立つ！ 子どもの保健 テキスト」小林美由紀編著 診断と治療社			
参考文献	授業中に紹介する。			
担当教員の 専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。国内外での教育機関などでの勤務。 子ども学分野を研究。文学博士。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	15% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	15% %
	社会人としての基本	15% %	主体性 素直 思いやり	15% %
	他者と関わる力	15% %	専門的知識・技術	25% %

2023年度 講義要綱

科 目	子どもの食と栄養 必修 2単位 講義		講 師	高尾 優
授業概要	栄養に関する基礎知識を身につけ、子どもの発育・発達に必要な栄養、および成人の栄養について学び、自身の食生活についても考える力を養う。 また、保育の現場で重要な食育について学ぶ。児童福祉施設や家庭での食と栄養、食の安全、疾患のときの食と栄養、肥満ややせの子どもの食と栄養、障がいのある子どもの食と栄養についても学習する。			
授業目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「保育所における食事の提供ガイドライン」(平成24年3月、厚生労働省)等			
到達目標1	子どもたちをとりまく環境について考え、子どもの食生活の現状と課題について理解できる。 栄養の基礎的な知識を身に付け、保育所における食育に関する指針を理解し、食育を実践できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席および授業の取り組み・課題(20点)受講態度、課題の提出状況などを評価します。 前回の授業内容に関する小テスト(30点):対面授業では小テストを行います。 定期テスト(50点)	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	講義および演習を行う。授業内容の復習のための小テストを実施する。			
授業計画	1 子どもの健康と食生活の意義(子どもを取り巻く環境、子どもの食生活の現状と課題) 2 栄養に関する基本的知識① 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能 3 栄養に関する基本的知識② 消化と吸収、栄養素の代謝 4 栄養に関する基本的知識③ 栄養バランスのとれた食事、調理の基本 5 発育・発達と食生活① 小児期の発育と発達、妊娠・授乳期の栄養 6 産学連携 7 発育・発達と食生活② 乳児期の栄養(乳汁栄養・離乳栄養) 8 発育・発達と食生活③ 幼児期・学童期の食生活、生涯発達と食生活 9 食育の基本 10 児童福祉施設や家庭における食事と栄養 11 食の安全(食中毒) 12 産学連携 13 特別な配慮を要する子どもの食と栄養① 体調不良および疾病の子どもへの対応 14 特別な配慮を要する子どもの食と栄養② 食物アレルギーのある子ども、障がいのある子どもへの対応 15 定期試験			
必須テキスト	今津屋直子・久藤麻子編著 新・子どもの食と栄養 教育情報出版 2022			
参考文献				
担当教員の専門分野等	小児栄養学(食育、食物アレルギー)			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

2023年度 講義要綱

科目	子どもの食と栄養 必修 2単位 講義		講師	島村 憲子
授業概要	健康な生活の基本として食生活の意義・栄養について学ぶ。 発育期の子どもに対する栄養の知識を理解する。			
授業目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「保育所における食事の提供ガイドライン」(平成24年3月、厚生労働省)等			
到達目標1	子どもが成長するために食生活が重要であることを理解する。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席、授業態度および課題の提出状況などで評価(30点)	
到達目標2	正しい栄養の知識を身につけ、発育期の子どもに対する栄養の特徴を理解する。児童福祉施設などの食育を理解する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	課題の提出状況および定期テスト(70点)	
授業方法	教科書や参考文献のプリントでの講義。 課題に対してのグループ討議をする。			
授業計画	1 子どもの心身の健康と食生活について 2 子どもの食生活の現状と課題 3 栄養素の基礎知識 糖質の代謝と栄養学的意義 4 たんぱく質の代謝と栄養学的意義 5 脂質の代謝と栄養学的意義 6 産学連携 7 ビタミン、ミネラルの代謝と栄養学的意義 日本人の食事摂取基準、食品群について 8 子どもの発育、発達と栄養について 乳汁期の栄養と食生活 9 離乳期の栄養と食生活 10 幼児期の栄養と食生活 11 幼児期の食生活上の問題 12 産学連携 13 施設における食生活、特別な配慮を要する子どもの栄養と食生活 14 食育の基本と内容 保育所における食育推進の計画、実施、評価 15 まとめ 試験			
必須テキスト	『発育期の子どもの食生活と栄養』学建書院			
参考文献	その時々参考になるものを紹介			
担当教員の 専門分野等	10年間、大学の小児科医のもとで乳幼児栄養に関する研究。 その後、乳幼児・学童・成人・老人を対象にしたの栄養相談。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

2023年度 講義要綱

科目	保育の計画と評価 必修 2単位 講義	講師	佐藤 博美	
授業概要	保育の計画と評価とはなにかを理解する。保育の計画と実践との関係を体験を通して学びを深め、知識を技能を身につける。			
授業目標	1. 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 2. 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 3. 保育のPDCAを理解し、活用することができる。			
到達目標1	保育における保育計画の意義と重要性を理解することができる。 子ども理解に基づく保育実践を体験し、子どもはあそびにより学び、成長している事を説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(30%)、テスト(20%)	
到達目標2	子ども主体の指導計画の意味を理解し、指導計画を立案することができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	テスト(20%)、課題(30%)	
授業方法	講義、調べ学習、発表など			
授業計画	1 保育所指針が何かを理解し、その重要性を理解する 2 保育の計画と評価を説明することができる 3 保育所についての理解を深める 4 PDCAを説明する事ができ、自分でも使う事ができる 5 保育所の先生方の意図を考える事ができる 6 PDCAを活用する事ができる 7 ①食育の推進②災害への備え について保育所がどのようなことを行っているかを調べる。 8 子育て支援の必要性を体感する。 9 支援が点から線になる重要性について理解し、 10 指導計画作成の留意事項① 11 指導計画作成の留意事項② 12 保育士の意図を考えて見学を行う 13 指導計画に基づく保育の展開 14 保育の省察、評価と改善を実践する 15 まとめ			
必須テキスト	マンガでわかる「保育所保育指針」中央法規			
参考文献				
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。幼稚園、保育所勤務経験。研究領域発達支援、グローバル保育。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %

2023年度 講義要綱

科 目	必修 2単位 講義		講 師	村山 久美
授業概要	保育における計画の意義・目的を学ぶ 子ども理解を基に保育過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)を学ぶ 指導計画を作成する			
授業目標	1. 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 2. 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 3. 子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について、その全体構造を捉え、理解する。			
到達目標1	・保育における計画の意義を理解し、説明することができる ・子ども理解に基づく保育過程を理解し、指導計画を作成することができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(40%) + 授業内での課題(20%) + 定期試験(40%)で評価します。	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	講義形式、指導計画の作成・発表、グループワーク			
授業計画	1 保育の目標と計画の考え方 2 保育におけるカリキュラムとは 3 子ども理解に基づくPDCAサイクルの循環 4 全体的な計画とは 5 長期的な指導計画の作成(0・1・2歳児) 6 産学連携 7 長期的な指導計画の作成(3歳以上児) 8 短期的な指導計画の作成(0・1・2歳児) 9 短期的な指導計画の作成(3歳以上児) 10 指導計画作成の留意事項① 11 指導計画作成の留意事項② 12 産学連携 13 指導計画に基づく保育の展開 14 保育の記録と省察、評価と改善 15 試験 「部分実習指導計画の作成」			
必須テキスト	『保育の計画と評価演習ブック』ミネルヴァ書房			
参考文献	保育所保育指針			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。保育所園長歴10年。「言葉」「子育て支援」「実習指導」を専門に研究。研究実績あり。『子どもの理解と援助』一藝社、第3章執筆。『子どもの文化』共感共鳴共有すること、執筆。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	40% %

2023年度 講義要綱

科目	保育内容総論		必修 1単位 講義	講師	岸久美子
授業概要	テキストを中心に、幼児教育における指導の方法や具体的な保育の過程について学ぶ。 また、保育現場の事例を通して、どのようにして子ども達の発達を支えているのか理解する。				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解する。 				
到達目標1	幼児の趣味や関心、発達などに応じた具体的な指導方法について理解する。 保育所保育指針等における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席(20%)+授業態度、提出物等(30%)+学期末試験(50%)=100%		
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)			
授業方法	テキストを用いた講義形式。必要に応じてグループワークを行なう。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス／保育所保育指針に基づく保育の全体構造 2 保育所保育指針に基づく保育内容の理解① 3 保育所保育指針に基づく保育内容の理解② 4 小テスト／養護と教育が一体的に展開される保育 5 (オンライン)子ども主体性を尊重する保育 6 産学連携 7 保育内容の歴史の変遷とその社会的背景 8 子どもの発達や生活に即した保育内容の基本的な考え方／個と集団の発達を踏まえた保育 9 小テスト／生活や遊び、環境を通して行う総合的な保育 10 家庭や地域との連携をふまえた保育／小学校への接続を踏まえた保育 11 (オンライン) 12 産学連携 13 特別な配慮を要する子どもの保育／多文化共生の保育 14 総復習 15 科目まとめ 				
必須テキスト	新基本保育シリーズ④保育内容総論(中央法規)				
参考文献	保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(フレーベル館) その他、授業内で随時紹介する。				
担当教員の専門分野等	保育者養成校に、ピアノをはじめ実習等の担当として約20年勤務。現在、大学院博士後期課程において保育学を専攻。日本保育学会、日本乳幼児教育学会、日本乳幼児教育・保育者養成学会、日本学校音楽教育実践学会他に所属。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%	
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%	
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%	

2023年度 講義要綱

科目	保育内容総論 必修 1単位 講義	講師	竹島 孝昭	
授業概要	保育現場で必要とされる保育内容の基礎的知識を学ぶ。 実際の保育現場の事例を通して、子どもの発達を捉えた保育内容について理解を深める。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解する。 4. 保育の多様な展開について具体的に理解する。 			
到達目標1	保育内容について基本的な知識を理解し、柔軟に活用することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業内課題 25点 実演課題 25点	
到達目標2	グループワーク等の経験を重ねることによって、幼児の興味や関心、発達などに応じた具体的な指導の在り方を理解し、説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論貢献 25点 グループ制作 25点	
授業方法	講義・ディスカッション・個人ワーク・事例検討・グループワーク			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 保育内容とは何か、乳幼児期の教育基本 2 保育所の環境について 人的環境・物的環境を考える 3 子どもの育ちの理解 子どもの心の動きを探る① 4 子どもの育ちの理解 子どもの心の動きを探る② 5 産学連携を踏まえた、子どもとの関わり 6 産学連携 7 産学連携から得た学びのディスカッション(保育現場の子どもとの関わりについて) 8 保育園の1日、1年間について学ぶ 9 保育内容について0～2歳児の遊びを学ぶ 10 保育内容について3～5歳児の遊びを学ぶ 11 産学連携を踏まえた、子どもの遊び 12 産学連携 13 産学連携から得た学びのグループディスカッション(保育現場の保育内容について) 14 模擬保育を考える 15 模擬保育を実践する 			
必須テキスト	なし			
参考文献	保育所保育指針、保育所保育指針解説			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当する。保育園に6年勤務。現在、補助金事業を通して保育園、運営会社のサポートに携わる。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

2023年度 講義要綱

科 目	保育内容総論		必修 講義	講 師	戸田 真
授業概要	この科目では、保育内容を総合的に捉える視点を養い、実際の保育現場の事例を通して保育内容について理解を深めます。授業を通して様々な保育知識に触れ、自分の保育感の基礎を考えていきます。				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な保育者像、環境、考え方と出会うことによって、自分なりの保育者像、環境イメージを持つ。 2. 共同作業の経験を重ねることによって、人と協力的な関係を気づく力を養う。 3. 子どもの発達や実態を知り、それらに応じた具体的な保育の展開を知る。 				
到達目標1	子ども発達や実態を知り、それらに応じた具体的な保育の展開を知ることで自分なりの保育士像を持つことができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	レポート→25点 テスト→25点		
到達目標2	ディスカッション等の経験を重ねることによって他者との関わる力を身に着けることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論貢献→25点 意欲態度→25点		
授業方法	講義・ディスカッション・個人ワーク・グループワーク				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育のイメージ 保育園における養護と教育とは何か考える 2 環境について 人的環境・物的環境を考える 3 子どもの道徳理解について考える 4 子どもの自制心について考える 5 (オンライン)保育園における伝統行事とは 6 産学連携 7 保育園の保護者支援とは 8 命について 9 友達同士の関わりで学ぶものは 10 保育の中の選択とは 11 (オンライン)保育に影響を与えた偉人達 12 産学連携 13 子どもの権利条約を考える 14 自分の保育感を考える 15 試験 				
必須テキスト					
参考文献					
担当教員の専門分野等	幼稚園9年、保育園7年勤務 現在主任として勤務、第三者評価員として評価機関に所属。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	40 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	10 %	

2023年度 講義要綱

科目	保育内容の理解と方法・身体表現遊び I 必修 1単位 講義		講師	真砂 雄一
授業概要	子ども達に運動遊びの楽しさを教えるためにも、まずは学生自身が運動遊びを体験する。 そして、子どもたちの表現と運動に関する知識を身に付ける。 環境構成について考え、展開するための技術を学ぶ。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	子どもの運動、表現遊びについての基礎知識を説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)、講義内容に関するレポート(30点)	
到達目標2	子どもの発育発達に沿った運動遊びについて理解し、実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループワークでの貢献度(10点)、実践発表(30点)	
授業方法	保育現場でどのような運動遊びが求められているか、実践を通し考えを深めていく。 運動遊びの援助・指導・安全管理等、環境構成、計画立案等、様々な形の学習を体験する。 対面授業は1回目からすべて7階 A71教室にて行う。 *社会情勢や進行状況に合わせて内容や順番を適宜変更する。			
授業計画	1 ガイダンス・からだほぐし 2 身体表現 3 ボール遊び① 4 リズム遊び・鬼ごっこ 5 幼児期に必要な運動とは①(オンライン) 6 産学連携 7 ボール遊び② 8 運動遊び実践の計画立案作成/グループ決め 9 運動遊び実践① 10 運動遊び実践② 11 幼児期に必要な運動とは②(オンライン) 12 産学連携 13 運動遊び実践③ 14 運動遊び実践④ 15 身体表現遊びのまとめ、振り返り			
必須テキスト	特に必要なし			
参考文献	授業中に紹介する			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。現在短大にて、幼児体育や健康を担当する准教授として勤務。小学校で体育テクニカルアドバイザーの経験あり。保育園にて運動指導アドバイザー。専門分野:幼児体育、身体表現、健康科学			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	30% %

2023年度 講義要綱

科目	保育内容の理解と方法・音楽遊び I		必修 1単位 講義	講師	木下 裕子、高橋 裕希子、山崎 洋子、浦 啓子
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。 ※個人レッスンの待機時間も含め、電子ピアノで自主練習をおこなう際、感染予防のため必ずイヤホンまたはヘッドフォンを持参してください。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	・教科書に沿って鍵盤楽器(ピアノ等)の基礎を学びつつ自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨むことが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(50点)、実技試験発表(50点)		
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(50点)、実技試験発表(50点)		
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。またオンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。				
授業計画	1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A) ②グループに分かれて45分で入れ替わる) 2 ④ピアノ等による個人レッスン/⑧歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。 3 ④ピアノ等による個人レッスン/⑧保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。) 4 ④ピアノ等による個人レッスン/⑧現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法) 5 ④ピアノ等による個人レッスン/⑧子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。 6 産学連携 7 ④ピアノ等による個人レッスン/⑧わらべ歌・手遊び歌の演習 8 ④ピアノ等による個人レッスン/⑧童謡・唱歌等の子どもの歌の演習 9 ④ピアノ等による個人レッスン/⑧簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ) 10 ④ピアノ等による個人レッスン/⑧リトミックを含む歌遊びの演習 11 ④ピアノ等による個人レッスン/⑧互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。 12 産学連携 13 ④ピアノ等による個人レッスン/⑧個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。 14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A) ⑧共) 15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(A)⑧共)				
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの歌』教育芸術社				
参考文献	随時講師が準備する。				
担当教員の専門分野等	専任: 木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %	
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	40% %	

2023年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・造形遊びⅠ		必修 1単位 講義	講 師	目黒 祥元
授業概要	造形の基礎を、造形遊びの実習を通じて身につけ、基礎技能と保育における造形遊びの意味や本質について学んでゆく。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	1、造形遊びを楽しんでいた子供の頃の感覚をしばし取り戻し、実習に臨んでもらいたい。この実習を通して、幼児造形で使用される教材を理解し、基礎的な技能を身につけ、まずはモダンテクニックなどの基礎的造形遊びの準備から片付けまでが出来るようになる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	課題制作や壁面装飾などにおいて、主体的に取り組みができている。(15点) 指定課題の提出ができている。(70点) 提出作品の評価(15点) 筆記試験、追試は実施しない。		
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)			
授業方法	指定課題は、授業中に提出します。また、作品は、壁面装飾にも使用します。制作は、授業時間内に行い、持ち帰りの制作は原則認めません。				
授業計画	1 授業の進め方、課題の提出方法などについて説明。 用具、画材などについての説明。紙工作体験。 *状況により授業内容の予定は、変更する場合があります。				
	2 絵の具の基礎を水彩絵の具を使って学ぶ				
	3 モダンテクニックの体験 デカルコマニー *モダンテクニックとは、紙と絵の具、クレヨン、クレパスなどを使用したデカルコマニー、ドリップング、ブロウイング、スクラッチなどのテクニックのことで、幼児のみならず、発展応用によって専門家も使用する平面造形の基本テクニックと言えます。まずは基礎的なテクニックを、幼児造形を念頭に置いて体験してゆきます。				
	4 モダンテクニック体験 糸引き絵、吹き散らし絵				
	5 モダンテクニック体験 ビー玉を使って				
	6 産学連携				
	7 モダンテクニック体験 ドロッピング				
	8 7、8で製作したモダンテクニックの課題作品を、ここでは素材として使って、はり絵をします。 壁面装飾。				
	9 版を作る				
	10 版を刷って、できた作品を壁面装飾				
	11 粘土で遊ぶ パルプ粘土を使用した粘土遊び				
	12 産学連携				
	13 水彩絵具で色を塗って仕上げる				
	14 紙コップなどを使って工作。				
	15 描画における発達段階の特徴を学び、体験する。				
必須テキスト					
参考文献	特に指定しないが、幼児造形に限らず、美術全般に幅広く関心を持ってもらいたい。				
担当教員の 専門分野等	美術家。本校においては、資格試験の実技指導に当たる。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	5% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	5% %	主体性 素直 思いやり	20% %	
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	50% %	

2023年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・造形遊び I		必修 講義	講 師	高木 秀文
授業概要	親しみのある画材や身の回りにある素材を使って表現活動する「造形」を子どもと一緒にあそぶように保育者自身も楽しめるための知識と技能を身につける。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	子どもの造形活動を深く理解して寄り添い、指導と同時に支援する行動を自ら取ることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	製作課題への積極的な取り組み(30%)+特定課題(事前告知)の仕上がり(20%)+見直しテスト課題(50%)=合計(100%) 意欲的な取り組みを評価します。		
到達目標2	季節や行事に沿った造形遊びのアイデア、引き出しを増やして子どもに向けた幅広い造形活動ができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	製作課題への積極的な取り組み(30%)+特定課題(事前告知)の仕上がり(20%)+見直しテスト課題(50%)=合計(100%) 意欲的な取り組みを評価します。		
授業方法	幼児期の絵画表現を擬似的に再現して造形活動への理解と興味を深める。 身近な素材を使った製作物を作り、成果を共有する。				
授業計画	1 授業内容、教材、用具、評価の説明。 児童画を鑑賞して気づいた点をコメントして共有します。 貼り絵の製作課題の準備として身の回りの用紙集めの説明。 2 なぐり描き期の説明と作例の共有をします。 関連演習一背面向きで顔を描く。 3 象徴期の説明と作例の共有をします。 関連演習一身の回りの顔さがし。 4 図式期の説明と作例の共有をします。 関連演習一絵描き歌を考える。 5 身の回りで集めた用紙、色紙を用いて貼り絵のお弁当を作ります。 6 産学連携 7 貼り絵のお弁当を入れるリュックサックを色画用紙で製作します。 8 粘土玉作り、ペットボトルへ貼り付け、色粘土作り。 9 6月にまつわる風物や行事から題材を取った絵とお話作り。 10 紙粘土1で作った粘土玉で頭足人を製作、他製作物の共有します。 11 折り方と切り方を変えながら各種花びらを製作します。 12 産学連携 13 すり合わせ版画の製作と見立てた結果を共有します。 14 キッチンペーパーを使った揉み紙と紙染めをします。 15 油性クレヨンと水彩絵具ではじき効果を共有します。				
必須テキスト	特になし。				
参考文献	授業内で適宜紹介します。				
担当教員の専門分野等	絵画(日本画)制作。文化財修復技師。幼稚園の課外造形授業、美術研究所の児童画教室の勤務歴あり。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	15% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	15% %	
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	20% %	

2023年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・造形遊び I 必修 1単位 講義	講 師	廣田 篤憲
授業概要	現場で役に立つ実践的な課題を制作し、造形の技法を身につけその能力を高め指導者としての能力を養い身につけ、絵画造形の技法および指導方法を身につける。		
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児の造形教育の背景について理解し、育みたい「資質・能力」を知り、幼児期の終わりまでに育てたい姿を目標として、その基礎的な造形能力・表現力および指導方法を身につける。 2. 造形における教材・素材等の活用及び作成と、造形教育の環境の準備構成、指導現場で展開できる技術と表現力を実践的に習得する。 3. 子どもが生活や造形遊びにおいて体験していることを捉え、造形教育で留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。 		
到達目標1	到達目標1. 子どもの造形活動について理解し、造形能力の発達段階に応じた造形指導ができるようになる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、制作した作品への取り組み(40点)
到達目標2	保育現場を考慮し、子どもの造形能力に応じた、造形環境を準備し造形遊びの内容を構成することができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	作品の制作の指導方法の理解(20点)、造形環境の準備内容の把握(20点)
授業方法	準備された画材・素材を使用して造形作品を制作しつつ、現場での指導方法を考え習得する。多種多様な表現方法を学び身につける。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育における造形表現の意味、造形表現の基礎知識(色彩、画材などの基礎知識)、造形表現の描画における発達段階と児童画の特徴を学ぶ(クレヨン・クレパスで体験する) ・教科書:P.112~P.119 造形表現の描画における発達段階と児童画の特徴を学ぶ(クレヨン・クレパスで体験する) ・教科書:P.218 2 デカルコマニー ・教科書:P.68、P.123 クレヨン・クレパスを使って虹色の形を作ろう(指を使って画材の特性を知る) ・教科書:P.58 3 バチック(はじき絵)、油性のクレヨンと水彩絵の具の性質を生かして ・教科書:P.56 4 画用紙をZ折りにして、展開して変化することを楽しむ絵を描く ・教科書:P.140 5 紙コップを使った工作(タコを作ろう) ・教科書:P.80 6 産学連携 7 マーブルングで紙に模様をつけ魚釣り遊びのオモチャを制作する:その1. 和紙ハガキを使ってマーブルング制作 ・教科書:P.117、P.126 8 マーブルングで紙に模様をつけ魚釣り遊びのオモチャを制作する:その2. マーブルングを施した紙を使って魚の工作、竹ひごなどを使って釣り竿作り ・教科書:P.177 9 にじみ絵の技法を使ってシャボン玉を表現する:その1. ・教科書:P.147 10 にじみ絵の技法を使ってシャボン玉を表現する:その2. ・教科書:P.147 11 紙コップを色画用紙を使った工作(美容師ごっこ) ・教科書:P.138 12 産学連携 13 ひっかき絵(スクラッチ)、平面技法の応用 スクラッチの技法を使ってメダルを作ろう ・教科書:P.58、P.124 14 クレヨン画の技法を身につける リンゴをクレヨンで描く:その1. 15 クレヨン画の技法を身につける リンゴをクレヨンで描く:その2. 		

必須テキスト	幼児造形の基礎 萌文書林 著者:樋口一成 編著			
参考文献				
担当教員の 専門分野等	多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業 中・高等学校美術科教諭を経てイラストレーション、機械式腕時計内部の鉛筆細密デッサン、立体作品、ペーパークラフト、アマチュアの制作、アートディレクションなど			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	50% %

2023年度 講義要綱

科 目	乳児保育 I 必修 2単位 講義	講 師	佐藤 めぐみ	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育の意義・目的と役割を学び、乳児保育の現状と課題を知る。 ・3歳未満児の発育・発達をふまえた保育を学ぶ。 			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。			
到達目標1	乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解し「乳児保育」について必要な事は自ら調べることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(40点)、講義内容に対するテスト(40点)	
到達目標2	多岐にわたる「乳児保育」の内容について知り自分でリアクションペーパーにまとめることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	リアクションペーパー(20点)	
授業方法	授業で学んだ範囲を自ら調べたり、感じたことをリアクションペーパーへ記入してまとめる。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価・持ち物について等) 2 乳児保育はなぜ必要か 3 乳児保育の成り立ち 4 保育所保育指針から学ぶ 5 人生の基礎としての乳児期 6 産学連携 7 小テスト(第1回～第5回までの授業を振り返る) 8 乳児のこころの発達 9 乳児のこたばの発達 10 乳児のからだ 11 乳児保育の連携 12 産学連携 13 保育所の1日の流れ 14 小テスト(第8回～第13回までの授業を振り返る) 15 まとめ 			
必須テキスト	「はじめて学ぶ 乳児保育」同文書院			
参考文献	授業中に適宜紹介			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年私立保育園に勤務し、主任として実習指導や職員育成に携わる。専門は「乳児保育」。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	25 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	5 %
	他者と関わる力	5 %	専門的知識・技術	35 %

2023年度 講義要綱

科 目	乳児保育 I	必修 講義	講 師	星野 優芽
授業概要	3歳未満児の保育について学びます。乳児保育 I では、乳児保育の意義や目的、乳児保育の現状や課題、また3歳未満児の発達を踏まえた保育内容について学んでいきます。			
授業目標	1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。			
到達目標1	1. 乳児保育の意義・目的を説明できるようになる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	最終回に実施予定のテストで評価する(30点)	
到達目標2	2. 乳児保育における「愛着」や「安全基地」について自分の言葉で説明できる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	(1)最終回に実施予定のテスト、自分の言葉で「愛着」や「安全基地」とは何かを説明する。(30点) (2)授業内のワークシートやグループワークで、「愛着」が形成されていることの意味や「安全基地」の役割を考え、自分の言葉で伝えたり、表現することができる。(40点)	
授業方法	・講義やグループワーク 保育者には他者とのコミュニケーションや自分の考えを表現する力が大切です。 ・テストあり			
授業計画	1 この授業の内容や方法について説明します。その上で、時間があれば、乳児保育についてのイメージを聞かせていただければと思います。 2 乳児保育とはそもそも何か、またその社会的意義について学びます。 3 保育所保育指針における乳児保育の理念と、児童福祉施設の設備運営に関する基準について学びます。その上で、乳児保育が行われているさまざまな場所についても知っていきましょう。 4 子どもが育つことの基盤になる「愛着」について学びます。子どもは愛着対象である大人を安全基地にして遊びや環境に向かいます。それによって、子どもは好奇心や探究心をもって、外の世界に自ら働きかけることが出来るようになります。 5 乳児保育で大切な「3つの視点」と、1歳以上3歳未満、3歳以上の保育で大切な「5領域」について、それらがなぜ必要なのか、また「3つの視点」と「5領域」のつながりについて学びます。 6 できれば乳児保育(0歳児、1歳児、2歳児クラス)で子どもがどんな遊びをしていたか、どんな様子だったか、について観察してきてもらえたらと思います。 7 0~3歳を見通したときどんな流れで子どもが発達して(育って)いくのか、おおまかにさらってみましょう。 8 保育所保育指針第2章には、保育における「ねらい」と「内容」が書かれ、その上で「保育の実施に関わる配慮事項」という項目が設けられています。そこに書かれた内容について詳しく学んでいきましょう。 9 保育所や認定こども園の乳児保育では「日課」や「デイリープログラム」と呼ばれる1日の流れがおおまかに決められています。子どもが同じ生活リズムで過ごすことが、心身の安定につながるからです。そうしたデイリープログラムについて、具体的に見ながら、同時に職員の勤務体制についても考えてみましょう。 10 具体的な事例から、職員間の連携について考えてみましょう。同時に担当制についても触れ、そのメリットや気を付けなければならないことについても考えてみましょう。 11 乳児を保育する上では、特にその家庭での過ごし方を知ることが重要です。保育する上で必要な保護者とのコミュニケーションと、その支援について学びます。 12 子どもと保育者が関わる場面から、「愛着」というものを感じたり、年齢が低ながらも夢中で遊ぶ子ども、それを支える保育者のかかわりに注目してみましょう。 13 産学連携での観察内容から、エピソードを書き、また他の学生のものを読んでみましょう。エピソードから、乳児の心の動き、育ちを捉えてみましょう。 14 産学連携での観察内容から、エピソードを書き、また他の学生のものを読んでみましょう。エピソードから、乳児の心の動き、育ちを捉えてみましょう。 15 ・乳児保育の意義・目的を説明する ・乳児保育における「愛着」や「安全基地」とはどういうものか、具体的な例を用いて説明する ※教科書やプリントの持ち込みは不可。自分でまとめたノートなどは持ち込み可とする			

必須テキスト	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 松本峰雄監修 池田りな・才郷真弓・土屋由・堀科(2019)『乳児保育演習ブック第2版』ミネルヴァ書房			
参考文献	授業中に紹介			
担当教員の専門分野等	保育者の専門性、実践知、0歳児保育について特に関心があります。 保育者は保育中何を考えているのか、何を視ているのか、あるいは、何について把握しておかなければならないのか、何を意識しておかなければならないのか、それが保育の実践における専門性であると考えています。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	20% %

2023年度 講義要綱

科 目	必修 2単位 講義		講 師	中村 直美
授業概要	乳児保育の意義、目的、歴史、役割等の基本を学び、乳児の成長、発達の過程を学習します。また、その発達の姿を追いながら援助の方法や保育内容等の基本を学ぶ。			
授業目標	1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。			
到達目標1	1. 乳児保育の意義や目的、歴史、基本知識等を知り具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)試験(30点)	
到達目標2	2. 乳児の成長、発達過程等を知り、保育の中でのその姿を想定しながら配慮事項などを具体的に説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)試験(30点)	
授業方法	1. パワーポイントを使用した講義 2. 乳児向けの手遊びや絵本、紙芝居の紹介			
授業計画	1 オリエンテーション(この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について) 2 乳児保育とは 3 乳児保育の歴史について 4 乳児保育を支える法律について(児童福祉法、児童福祉施設の設備及び運営に関する基準) 5 乳児保育の基礎知識① 人間の赤ちゃんは無力なの？(ポルトマンの生理的早産と乳児の生得的な特性) 6 産学連携 7 乳児保育の基礎知識② 愛着形成(ボウルビイの愛着理論) 8 保育所での愛着形成について、1～2か月、3～4か月児の発達の特徴 9 5～6か月児の発達の特徴、乳児の睡眠について 10 7～8か月児の発達の特徴、SIDSについて 11 9～10か月児の発達の特徴 乳児の授乳について 12 産学連携 13 11～12か月児の発達の特徴 乳児の離乳食について 14 1歳～1歳6か月児の発達の特徴 1歳6か月～3歳未満児の発達の特徴 15 試験・まとめ			
必須テキスト	「はじめて学ぶ 乳児保育」 志村聡子編著者 同文書院			
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等(保育所、高齢者施設等)における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	30% %

2023年度 講義要綱

科目	乳児保育Ⅱ		必修 1単位 講義	講師	佐藤 めぐみ
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育の基本を知り、乳幼児期の生活と援助の方法を体験する。 ・3歳未満児の発育、発達をふまえた保育を深める。 				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの方的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 <p>※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。</p>				
到達目標1	座学で学んだ抱っこ、沐浴、着替え、授乳を適切に行える。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	実技への取り組み(40点)		
到達目標2	多岐にわたる乳児保育について知り、毎回自分でリアクションペーパーに課題をまとめることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	リアクションペーパー(50点)、授業への取り組み(10点)		
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内容から自分の考えをリアクションペーパーに記入。 ・抱っこ、沐浴、着替え等の介助を実際に行う体験型学習。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価・持ち物等の説明) 2 だっこのしかた・おんぶのしかた 3 だっこのしかた・おんぶのしかた【実践】 4 乳児の衣服の基礎、衣服の着せ方・脱がせ方 5 おむつ替えとおむつはずれ 6 産学連携 7 赤ちゃんの着替えとおむつ替え【実践】 8 沐浴の仕方・清拭の仕方 9 沐浴の仕方・清拭の仕方【実践①】 10 沐浴の仕方・清拭の仕方【実践②】 11 乳児保育の安全管理 12 産学連携 13 授乳の仕方と離乳食の基礎知識 14 授乳の仕方【実践】 15 まとめ 				
必須テキスト	「はじめて学ぶ 乳児保育」同文書院				
参考文献	授業中に適宜紹介				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年私立保育園に勤務し、主任として実習指導や職員育成に携わる。専門は「乳児保育」				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	5 %	
	社会人としての基本	5 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2023年度 講義要綱

科目	乳児保育Ⅱ		必修 1単位 講義	講師	中村 直美
授業概要	乳児保育Ⅰで学んだ3歳未満児の発達過程を踏まえて、実際の保育の場での援助方法、関わり方等を実習室での実習や、対応ワーク等で演習しながら学ぶ。				
授業目標	1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実践について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。				
到達目標1	1, 3歳未満児の発達過程やその特徴を理解し具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)講義内容に関する筆記試験(30点)		
到達目標2	2, 3歳未満児の日常生活の援助の方法がわかり実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)講義内容に関する筆記試験(30点)		
授業方法	1, パワーポイントを使用した講義 2, 実習室での実技演習				
授業計画	1 オリエンテーション(この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について) 2 身支度、抱っこの仕方、おんぶの仕方について 3 乳児の衣服の基礎知識、衣服の着せ方、脱がせ方の基本について 4 乳児の排泄の基礎知識、オムツ交換の仕方の基本について 5 乳児の衣服の着脱方法、オムツ交換の実践について 6 産学連携 7 乳児のからだの清潔の基礎知識、沐浴の基本について 8 沐浴の実践について 9 授乳、冷凍母乳、離乳食の基礎知識について 10 授乳、離乳食の実践について 11 事例ワーク 12 産学連携 13 かみつき、ひっかきについて考える① 14 かみつき、ひっかきについて考える② 15 試験・まとめ				
必須テキスト	「はじめて学ぶ 乳児保育」 志村聡子編著者 同文書院				
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等(保育所、高齢者施設等)における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %	
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	30% %	

2023年度 講義要綱

科目	子どもの健康と安全		必修 1単位 講義	講師	中村 直美
授業概要	保育における健康、安全の管理に関する知識を知り、具体的な方法を体験し、自分自身や仲間と考えてみることで実践力を養っていく。				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 4. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。 5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドライン(※)や近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。 6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「2012年改訂版保育所における感染症対策ガイドライン」(平成24年11月、厚生労働省)、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省)等				
到達目標1	1. 保育現場における保健的観点を踏まえた衛生管理や感染対策についての基礎知識を知り、具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)講義内容についての試験(30点)		
到達目標2	2. 保育現場における保健的観点を踏まえた安全管理や救急対応についての基礎知識を知り、具体的に説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)講義内容についての試験(30点)		
授業方法	パワーポイントを使用した講義で基本を学び、グループワークや演習で体験し、学習を深めていく。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について) 2 健康観察(身体測定、健康診断)と年間保健計画について 3 保育環境の整備、衛生管理について 4 子どもの事故の特徴について 5 保育所での事故防止と安全管理について 6 産学連携 7 災害への備えと危機管理について 8 体調不良や傷害の対応について 9 救急時の対応について 10 子どもと感染症①(基礎知識) 11 子どもと感染症②(標準予防策、保育所での集団発生への対応) 12 産学連携 13 子どもと感染症③(嘔吐処理の方法) 14 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応(食物アレルギー)について 15 試験・まとめ 				
必須テキスト	全国社会福祉協議会 最新 保育士養成講座第7巻 「子どもの健康と安全」				
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等(保育所、高齢者施設等)における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %	
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	40% %	

2023年度 講義要綱

科 目	子どもの健康と安全 必修 講義		講 師	竹内 麻貴
授業概要	1. 子どもの健康や安全を守る定義や意義を理解する。 2. 子ども生命維持に必要な知識を学び理解する。 3. 子どもの安全について基礎的な知識を理解し、具体的な対策等を考慮することができる。			
授業目標	1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 4. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。 5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドライン(※)や近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。 6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「2012年改訂版保育所における感染症対策ガイドライン」(平成24年11月、厚生労働省)、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省)等			
到達目標1	1. 「子どもの保健」で学んだ総合的に保育することを踏まえ、子どもの健康保持や安全維持するために必要な知識を理解し、知識を深める。 2. 保育現場や保育活動を行う場面を想定し、具体的な安全対策および救急処置が行える。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	定期試験(80%)＋リアクションペーパー・演習態度(10%)＋提出物(10%)＝合計(100%)を総合して評価します。	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	講義、演習、グループワーク等、授業内容にそった授業形式とする。 救急・応急処置法は演習を中心に行う。			
授業計画	1 子どもの健康の維持と健康管理の必要性を考え、理解する。 2 ・子どもが体調不良を起こす原因、発生状況を知る。また予防法も理解する。 ・子どもが体調不良を起こしたときの観察点を学び、理解する。 3 子どもの体調不良時の対応方法を学び、理解する。 4 事例検討①・・・けがや事故が発生しやすい箇所を見つけ、どんなけがが予測できるか、またその予防策を考える。 5 事例検討②・・・けがや事故が発生しやすい箇所を見つけ、どんなけがが予測できるか、またその予防策を考える。 6 産学連携 7 産学連携を通して、気付いた危険を振り返る。 8 実際に起こった犯罪事例を通して、原因や予防法を考え、学ぶ。 保育者としての責任、定義を再確認する。 9 実際に起こった事故・事件の裁判事例を通して、保育態度が招く危険とそれに伴う罰則、裁判を知り、学ぶ。 また保育者としての責任、定義を再確認する。 10 自然災害、天災などの災害と、引き起こる二次災害に備える方法や訓練法を知る。 11 CPR法、AED装着法、窒息時の背部叩打法を学ぶ。 実際に演習を行う。 12 産学連携 13 救急処置法について学び、救急処置法を演習する。 14 子どもの感染症の予防、アレルギー疾患を学び、理解する。 15 総まとめとして定期試験を行う。			
必須テキスト	『新基本保育士シリーズ⑩子どもの健康と安全』松田博雄、中央法規。			
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントや資料を配布			
担当教員の専門分野等	国立行政機構京都医療センターにて看護師勤務。(産婦人科、外科など)。取得資格・・・看護師、介護福祉士、ケアマネージャー、医療的ケア教員資格取得。出産後、小児科クリニック看護師業務と同時に、女性の家事・育児と言う視点で国際女性会議にて講演を行う。母子支援NPOを設立。託児付きクラシックコンサート企画運営、子育て本出版、TV出演等の活動を行う。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	5% %	主体性 素直 思いやり	10% %
	他者と関わる力	5% %	専門的知識・技術	50% %

2023年度 講義要綱

科 目	社会的養護Ⅱ 必修 1単位 講義		講 師	錫田 陽介
授業概要	社会的養護における具体的な支援内容を学ぶ。 支援の基盤となる支援計画の作成方法を学び、実践する。 自身の価値観や考え方の傾向について演習を通して理解を深める。			
授業目標	社会的養護における支援計画及び具体的な支援方法について理解する。 自身の性格や傾向を知り、専門職としての意識を高める。			
到達目標1	社会的養護の具体的な支援方法を理解した上で、施設実習に挑む心構えを作る事ができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(30点) 筆記試験(20点)	
到達目標2	保育士の社会的意義を理解して、どのような役割を持っているかを理解し、就職後の心構えを作ることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業ごとのレポート(40点) ディスカッションへの参加態度(10点)	
授業方法	個人・グループでの演習を多く取り入れ、主体的な参加型の授業を行う。 授業内容を踏まえた社会的養護に関するテーマでレポートを作成する。			
授業計画	1 オリエンテーション(授業方法や成績評価)／社会的養護Ⅰの復習 2 社会的養護施設の子どもたちへの理解 3 子どもの権利 4 生活支援と治療的支援 5 自立支援とアフターケア 6 産学連携 7 子どもと向き合うということ 8 社会的養護を必要とする親子への理解 9 愛着障害児への理解と支援方法 10 情報収集とアセスメント 11 自立支援計画の作成 12 産学連携 13 ケーススタディ 14 テスト・振り返り 15 社会的養護の教科の振り返りと今後の展望			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	授業内において紹介。			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業に該当。児童養護施設・発達障害児支援施設での経験あり。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	20% %	主体性 素直 思いやり	10% %
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	20% %

2023年度 講義要綱

科目	社会的養護Ⅱ 必修 1単位 講義		講師	藤高 直之
授業概要	社会的養護における具体的な支援内容を学び、支援の基盤となる支援計画の作成を実践する。 自身の価値観や考え方の傾向について演習を通して理解を深める。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。 			
到達目標1	社会的養護における具体的な支援内容を説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、グループワークでの発表内容(30点)	
到達目標2	支援の基盤となる支援計画の作成することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論への貢献度(20点)、発表・レポート(30点)	
授業方法	個人・グループでの演習を多く取り入れた授業を行う。 授業内容を踏まえた社会的養護に関するテーマでレポートを作成する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(授業方法や成績評価)／社会的養護Ⅰの復習 2 日常生活のなかに見る専門的援助の実際 3 施設養護の具体的な取り組みの実際(日常生活支援、治療的支援、自立支援) 4 施設の暮らし1ー施設での生活を始めるとということ 5 施設の暮らし2ー施設の生活について(生活スタイルと日課) 6 産学連携 7 支援計画の実際と記録及び自己評価 8 自立への支援(リービングケア)の取り組み 9 施設退所後のアフターケアの取り組みの現状 10 社会資源としての児童福祉施設を考える 11 社会的養護に関わる専門的技術①(被虐待児への援助方法の実際) 12 産学連携 13 社会的養護に関わる専門的技術②(家庭復帰、家族再統合にむけた取り組みの実際) 14 社会的養護に関わる専門的技術③(子どもの権利とその擁護の実際) 15 社会的養護における家庭支援、課題と展望 			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	参考資料は授業時に紹介。			
担当教員の専門分野等	子育て支援を中心とした子ども家庭福祉分野を専門とする教員。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

2023年度 講義要綱

科目	社会的養護Ⅱ 必修 講義		講師	北川 裕子
授業概要	施設や保育士の役割や援助等、基礎的な内容について具体的に学ぶ。 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。 			
到達目標1	施設養護及び家庭養護の実際について理解できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(15点)、提出物(35点)	
到達目標2	虐待の防止、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深めることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(15点)、提出物(35点)	
授業方法	事例研究やロールプレイ、児童自立支援計画の立案等を通し、保育現場での実践力を身につけられるような学習を取り入れる。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 養護の基本原則等の復習、子どもの権利擁護 2 保育士の資質と倫理・責務、チームワーク 3 施設養護の生活特性および実際 ①入所、日常生活援助 4 施設養護の生活特性および実際 ②集団生活、家族調整 5 施設養護の生活特性および実際 ③自立支援 6 産学連携 7 施設養護の生活特性および実際 ④退所、アフターケア 8 施設養護の生活特性および実際 ⑤記録の意味、個別支援計画の作成、自己評価 9 保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 ①心理的支援 10 保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 ②被虐待児への支援、親への支援 11 保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 ③障がい児への支援、親への支援 12 産学連携 13 里親等の家庭養護の特性及び実際 14 今後の施設の方向性(小規模化等) 15 今後の社会的養護の方向性(家庭的養護の推進、地域との関わり、展望等) 			
必須テキスト	なし			
参考文献	「児童の福祉を支える 演習 社会的養護Ⅱ」吉田眞理著 萌文書林「図解で学ぶ保育「社会的養護Ⅱ」」原田句哉他 萌文書林			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。児童養護施設勤務経験あり。 児童家庭福祉・社会的養護分野を研究。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	15% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	15% %

2023年度 講義要綱

科 目	保育実習指導 I a		必修 1単位 講義	講 師	佐藤 めぐみ
授業概要	実習日誌の記載方法を体得したり、実習に向けて具体的な準備を進め、実技の練習、心構えを養い、保育所実習を有意義なものにするために必要事項を学ぶ。				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。 				
到達目標1	子どもや保育士に対する理解を深め、現場での実習生としての自分の姿をイメージできる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)、保育園見学への参加やそれにまつわる提出物(20点)		
到達目標2	保育所実習に臨む態度や目的意識が持つことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	準備・発表(20点)その他提出物(10点)筆記試験(20点)		
授業方法	講義、発表、グループワークなど				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習の概要 2 .実習の心得 個人票作成 3 保育所の1日の流れと保育内容の理解 実習目標を立てる 4 実習日誌を書く意義と記入の仕方 5 実習日誌:エピソード記録の書き方について 6 産学連携 7 部分実習指導計画について 8 実習に伴う書類作成 事務手続きの確認 実習課題 9 オリエンテーションについて 実習日誌の書き方 10 手遊び・絵本の指導案作成 11 実習日誌:ドキュメンテーション記録について 12 産学連携 13 絵本の読み聞かせの発表・ペープサートの発表 14 まとめと振り返り 15 試験 最終確認 				
必須テキスト	「フォトランゲージで学ぶ～子どもの育ちと実習日誌・指導計画～」(萌文書林) 「平成29年告示 保育所保育指針」(チャイルド社)				
参考文献					
担当教員の専門分野等	幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育所での実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	20% %	主体性 素直 思いやり	10% %	
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	20% %	

2023年度 講義要綱

科目	保育実習指導 I b		必修 1単位 講義	講師	錫田 陽介
授業概要	様々な施設の現場に立ち、対象者との関わりを通して学ぶ「施設実習」を行う際に必要となる知識や視点を養い、「施設実習」で得る貴重な経験を、より有意義な学びとできるよう、具体的な準備を進める。				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。 				
到達目標1	講義内容を理解し、要点をまとめ、自らの考えを文章として記すことができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関するノート提出(60点)		
到達目標2	実習に臨むにあたり、目的意識や自らの課題を具体的に記すことができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、実習目標の作成(20点)		
授業方法	ノート作成を伴う講義受講				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(授業概要・目標・方法・評価・持物等の説明) 2 子どもの育ちの理解①:愛着障害(1) 3 子どもの育ちの理解②:愛着障害(2) 4 関わりの技術①:実際の実習より(ロールプレイ) 5 関わりの技術②:「視点」を養う 6 産学連携週 7 子どもの育ちの理解③:発達障害 8 関わりの技術③:療育場面より 9 施設実習先の発表 10 施設実習への具体的準備①:個人票作成、オリエンテーション準備 11 施設実習への具体的準備②:実習目標の作成(1) 12 産学連携週 13 施設実習への具体的準備③:実習目標の作成(2) 14 実習日誌の理解と練習 15 施設実習への具体的準備:実習前/実習中/実習後にすること 				
必須テキスト	特になし				
参考文献	授業中に適宜紹介する				
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。児童養護施設・発達障害児支援施設での勤務経験あり。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	25 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	25 %	専門的知識・技術	10 %	

2023年度 講義要綱

科目	子どもと保育 選択必修 4単位 講義		講師	佐藤 めぐみ
授業概要	保育の本質、目的、意義を実践的に学ぶ。 実習生としての基礎知識、技量を身につけ、実習への準備をすすめながら、実習への期待を持つ。			
授業目標	保育所の基本的な事柄を学び、実習について準備を進める。 現場活動を通して、実践で活躍する人材へと成長する。			
到達目標1	実習への準備の基本として、授業に毎回出席する、提出物の期限を守る、報連相を行うことができる。(①コマ目)	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点)、課題(15点)、提出物(15点)	
到達目標2	実習をイメージしながら、実習に必要なスキルを習得する。(②コマ目)	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点)、課題(15点)、提出物(15点)	
授業方法	実習をイメージするために必要な基礎知識を学びと共に、手遊びや折り紙など実践的なスキルを高める。			
授業計画	1 「オリエンテーション」授業のルールと自分の学ぶべき事を理解する 2 「保育所的一天」一日のながれを知り、実習をイメージする 3 「森口先生の特別講演」保育現場の先生の講演により、保育の重要性を理解する 4 「環境図」実習日誌の最初のステップとして、環境図をかくことができる 5 「スケッチブックシアター」の制作と「保育所見学」の準備を行う 6 産学連携現場活動 7 「映像から学ぶ」色々な保育園があり、新人保育士の頑張っている姿から自分の将来をイメージする 8 「実習のながれ」を知り、実習までの道しるべをイメージする 9 「お礼状の書き方」を知り、実践する 10 「実習データDX」を実際に経験しながら、実習への知識を増やす 11 「日誌の書き方①」日誌の基本的な約束ごとを知り、日誌を写す 12 産学連携現場活動 13 「日誌の書き方②」保育所見学したことを日誌に記入する 14 「日誌の書き方③」初めての日誌を完成させ体験をする 15 「まとめ」前期授業の中で実習にむけて自分が成長した事を確認する			
必須テキスト	なし			
参考文献	なし			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業 幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育士としての実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

2023年度 講義要綱

科目	子どもと保育 選択必修 講義		講師	佐藤 博美
授業概要	保育の本質、目的、意義を実践的に学ぶ。 実習生としての基礎知識、技量を身につけ、実習への準備をすすめながら、実習への期待を持つ。			
授業目標	保育所の基本的な事柄を学び、実習について準備を進める。 現場活動を通して、実践で活躍する人材へと成長する。			
到達目標1	実習への準備の基本として、授業に毎回出席する、提出物の期限を守る、報連相を行うことができる。(①コマ目)	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点)、課題(15点)、提出物(15点)	
到達目標2	実習をイメージしながら、実習に必要なスキルを習得する。(②コマ目)	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点)、課題(15点)、提出物(15点)	
授業方法	実習をイメージするために必要な基礎知識を学びと共に、手遊びや折り紙など実践的なスキルを高める。			
授業計画	1 「オリエンテーション」授業のルールと自分の学ぶべき事を理解する 2 「保育所の日」一日のながれを知り、実習をイメージする 3 「森口先生の特別講演」保育現場の先生の講演により、保育の重要性を理解する 4 「環境図」実習日誌の最初のステップとして、環境図をかくことができる 5 「スケッチブックシアター」の制作と「保育所見学」の準備を行う 6 産学連携現場活動 7 「映像から学ぶ」色々な保育園があり、新人保育士の頑張っている姿から自分の将来をイメージする 8 「実習のながれ」を知り、実習までの道しるべをイメージする 9 「お礼状の書き方」を知り、実践する 10 「実習データDX」を実際に経験しながら、実習への知識を増やす 11 「日誌の書き方①」日誌の基本的な約束ごとを知り、日誌を写す 12 産学連携現場活動 13 「日誌の書き方②」保育所見学したことを日誌に記入する 14 「日誌の書き方③」初めての日誌を完成させ体験をする 15 「まとめ」前期授業の中で実習にむけて自分が成長した事を確認する			
必須テキスト	なし			
参考文献	なし			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業 幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育士としての実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

2023年度 講義要綱

科目	子どもと保育 選択必修 4単位 講義	講師	中西 和子	
授業概要	保育の本質、目的、意義を実践的に学ぶ。 実習生としての基礎知識、技量を身につけ、実習への準備をすすめながら、実習への期待を持つ。			
授業目標	保育所の基本的な事柄を学び、実習について準備を進める。 現場活動を通して、実践で活躍する人材へと成長する。			
到達目標1	実習への準備の基本として、授業に毎回出席する、提出物の期限を守る、報連相を行うことができる。(①コマ目)	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点)、課題(15点)、提出物(15点)	
到達目標2	実習をイメージしながら、実習に必要なスキルを習得する。(②コマ目)	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点)、課題(15点)、提出物(15点)	
授業方法	実習をイメージするために必要な基礎知識を学びと共に、手遊びや折り紙など実践的なスキルを高める。			
授業計画	1 「オリエンテーション」授業のルールと自分の学ぶべき事を理解する 2 「保育所的一天」一日のながれを知り、実習をイメージする 3 「森口先生の特別講演」保育現場の先生の講演により、保育の重要性を理解する 4 「環境図」実習日誌の最初のステップとして、環境図をかくことができる 5 「スケッチブックシアター」の制作と「保育所見学」の準備を行う 6 産学連携現場活動 7 「映像から学ぶ」色々な保育園があり、新人保育士の頑張っている姿から自分の将来をイメージする 8 「実習のながれ」を知り、実習までの道しるべをイメージする 9 「お礼状の書き方」を知り、実践する 10 「実習データDX」を実際に経験しながら、実習への知識を増やす 11 「日誌の書き方①」日誌の基本的な約束ごとを知り、日誌を写す 12 産学連携現場活動 13 「日誌の書き方②」保育所見学したことを日誌に記入する 14 「日誌の書き方③」初めての日誌を完成させ体験をする 15 「まとめ」前期授業の中で実習にむけて自分が成長した事を確認する			
必須テキスト	なし			
参考文献	なし			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業 幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育士としての実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

2023年度 講義要綱

科目	選択必修 1単位 保育内容の理解と方法・音楽遊びⅡ 講義		講師	上田 亜津子、金淵 洋子、木下 裕子、島内 亜津子、豊嶋 祐壹、山崎 洋子
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。コードネームによる簡易伴奏の仕組みを知り、まずハ長調の曲で演習していく。 ※個人レッスンの待機時間も含め、電子ピアノで自主練習をおこなう際、感染予防のため必ずイヤホンまたはヘッドフォンを持参してください。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	・教科書や「はじめての弾き歌い」のハ長調のコードネームによる弾き歌い等について自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨み、子どもたちへの視点を持った弾き歌いが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(50点)、実技試験発表(50点)	
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、環境、生活、人間関係等のそれぞれの歌のねらいを知り、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(50点)、実技試験発表(50点)	
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。またオンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。			
授業計画	1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A) (B)2グループに分かれて45分で入れ替わる 2 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。 3 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。) 4 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法) 5 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。 6 産学連携 7 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)わらべ歌・手遊び歌の演習 8 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)童謡・唱歌等の子どもの歌の演習 9 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ) 10 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)リズムを含む歌遊びの演習 11 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。 12 産学連携 13 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。 14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A) (B)共 15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(A)(B)共			
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱい』教育芸術社			
参考文献	『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編			
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。音楽、ピアノ、合唱指導、リズム指導。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	40% %